



National Institute of Informatics

NII Technical Report

科学研究費補助金採択研究課題数による大学の研究活性
度の調査研究－2004年度(平成16年度)版－ IV. 総合・
新領域系および大型研究費編

Evaluation of Japanese Universities' Research
Activity Based on the Number of Awards of
Grants-in-Aid for Scientific Research – 2004 Fiscal
Year – IV. Interdisciplinary and New Area &
Large-scaled Project Funds

光田好孝、野村浩康、前田正史、前橋 至、
根岸正光、柴山盛生、西澤正己、孫 媛

Yoshitaka MITSUDA, Hiroyasu NOMURA, Masafumi MAEDA,
and Itaru MAEBASHI,

Masamitsu NEGISHI, Morio SHIBAYAMA, Masaki NISHIZAWA,
and Yuan SUN

NII-2006-006J

Mar. 2006

科学研究費補助金採択研究課題数による
大学の研究活性度の調査研究
- 2004 年度(平成 16 年度)版 -
. 総合・新領域系および大型研究費編

光田好孝*, 野村浩康**, 前田正史*, 前橋至*
* 東京大学 ** 東京電機大学

根岸正光, 柴山盛生, 西澤正己, 孫 媛
国立情報学研究所

Evaluation of Japanese Universities' Research Activity
Based on the Number of Awards of
Grants-in-Aid for Scientific Research – 2004 Fiscal Year –
IV. Interdisciplinary and New Area & Large-scaled Project Funds

Yoshitaka MITSUDA*, Hiroyasu NOMURA**,
Masafumi MAEDA*, Itaru MAEBASHI*
* The University of Tokyo, ** Tokyo Denki University

Masamitsu NEGISHI, Morio SHIBAYAMA,
Masaki NISHIZAWA, Yuan SUN
National Institute of Informatics

Abstract

The system of *Grants-in-Aid for Scientific Research* from Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology of Japan is one of the oldest ones, which is the funding system for researchers belonging to universities and institutes in Japan. The fund was allotted to each researcher by peer review under the application for their own research projects.

This is the fourth report for 2004 fiscal year's version, that is, the research field of interdisciplinary and new area & large-scaled project funds. The large-scaled project funds involve the big project of Scientific Research on Priority Area, and the huge grants for Specially Promoted Area and for Creative Scientific Research. The total number of adoption subjects of research projects at 2004 has summed up for each university and institute both on individual research field of interdisciplinary and new area and on individual funds of large-scaled project funds, and compared them to those of 2003 which were reported previously.

目 次

・科学研究費補助金採択研究課題数による大学の研究活性度の調査研究について

1. はじめに	1
2. 2004 年度（平成 16 年度）の包括的な状況	1
3. 調査研究に利用したデータベース	4
4. 調査研究の具体的な分析方針	4

・科学研究費補助金採択研究課題数による大学の研究活性度：総合・新領域系編

1. 概要	7
2. 分野別	14
2 - 1 総合領域	14
2 - 2 複合新領域	27

・科学研究費補助金採択研究課題数による大学の研究活性度：大型研究費編

1. 概要	37
2. 大型研究費の特徴	39
3. 研究種目別	41
3 - 1 特定領域研究	41
3 - 2 特別推進研究	44
3 - 3 学術創成研究費	45

・科学研究費補助金採択研究課題数による大学の研究活性度の調査研究について

1. はじめに

文部科学省（文部省）科学研究費補助金制度は、1939年（昭和14年）に始まった古くからのわが国最大の、国・公・私立大学、国立研究機関等に所属する研究者に対する個人申請とピアレビューによる国の研究費配分制度である。この科学研究費補助金の配分システムが、いろいろな批判はあるにせよ、紆余曲折を経ながらわが国の大学の基礎研究を支えてきたと言っても過言ではない。その意味でも、科学研究費補助金がどのように配分されているかを総合的に分析・調査することは重要である。

科学研究費補助金の「系・分野（部）・分科・細目表」（以下「細目表」という。）は基盤研究等の種目に関し審査分野の区分を示す分類表であり、研究者は実施しようとする研究計画の内容を考え適切な細目を自ら選ぶことになっている。したがって、科学研究費補助金の「細目表」は不断に進展を続ける学問・研究の動向に合う適切なものでなければならない。科学研究費補助金の「細目表」については、5年ごとに見直されてきており、1998年度（平成10年度）に小規模な改正が、2003年度（平成15年度）に大幅な改正が行われている。

以上のことから、我々は、2003年度の「細目表」の大改訂を考慮して、1998年度（平成10年度）～2002年度（平成14年度）の5年間の全ての分野にわたって科学研究費補助金採択研究課題を分析し、その結果からわが国の大学・研究機関の研究活性度を調べ、国立情報学研究所の「NIIテクニカルレポート」（NII-2003-007J(2003)、NII-2004-001J～005J(2004)）として、Web上に公表した。同様に、新しい「細目表」を用いて初めて申請された2003年度の科学研究費補助金採択研究課題も分析し、国立情報学研究所の「NIIテクニカルレポート」（NII-2005-002J、004J、006J～008J(2005)）として、Web上に公表した。

本調査報告は、同様の調査研究の2004年度（平成16年度）版である。このような調査研究には連続性が必要であるので、2003年度までの調査研究と同じ方針でデータの整理・分析を行う。2003年度と同様に、個別課題研究費（基盤研究、萌芽研究、若手研究、特別研究員奨励費）と大型研究費（特別推進研究、特定領域研究、特別研究促進費、学術創成研究費）と研究成果公開促進費、審査・評価・分析経費にわけ、個別課題研究費、大型研究費について解析する。

なお、以下、2003年度（平成15年度）からの「細目表」を「新研究コード」、2002年度（平成14年度）までの「細目表」を「旧研究コード」と呼ぶこととする。

2. 2004年度（平成16年度）の包括的な状況

個別課題研究費、大型研究費、研究成果公開促進費および審査・評価・分析経費の3種類について、2003年度と2004年度との項目別予算の割合を図1-1に示す。総予算額が127億円増、前年比7.5%増えて1830億円となり、1995年度（平成7年度）と比較すると、倍増していることとなる。100億円を超える額が毎年上積みされ、緊縮財政の中では突出した状況にある。しかし、これまでと同様に項目別予算の割合はほとんど変化していない。言い換えれば、全体的な枠組みは近年ほとんど変化しておらず、総予算額のみが増えてきているといえる。

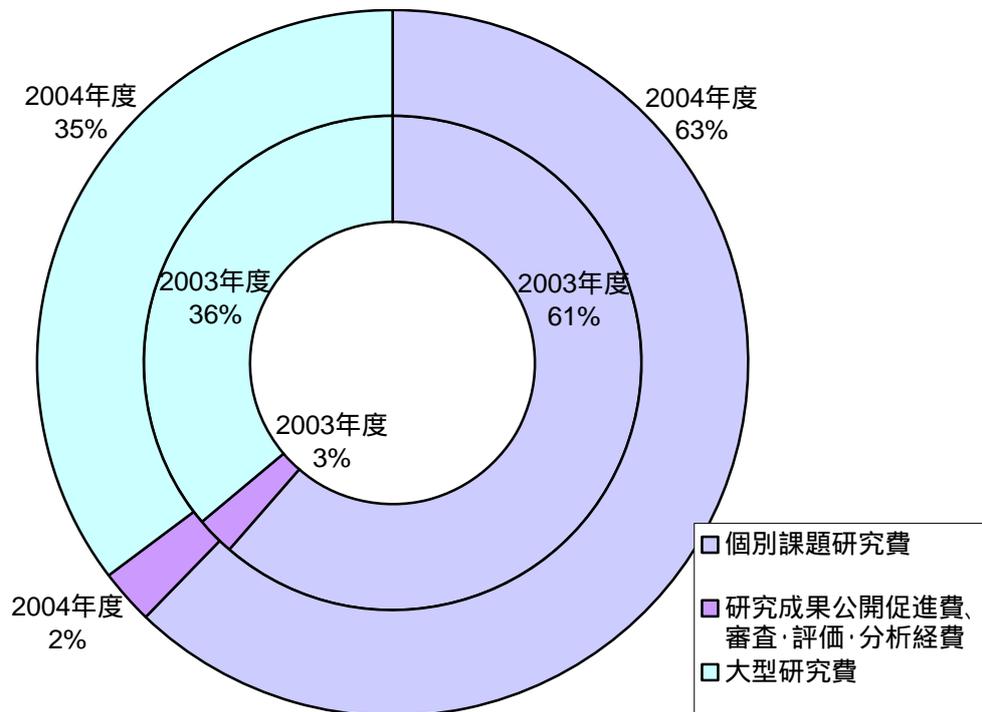


図 1 - 1 2003 年度(内周)と 2004 年度(外周)の科学研究費補助金の項目別予算の割合

個別課題研究費について、2003 年度と 2004 年度の採択研究課題数の割合を図 1 - 2 - 1 と 1 - 2 - 2 に示す。大雑把に言えば、「系」および「分野」ごとにみても、採択研究課題数の割合に目立った変化はない。細かく見ると、2003 年度と比較して、総予算額の増加に伴い全体の採択研究課題総数が約 8% 増え、「系」別の伸びが総合・新領域系で 23%、人文社会系で 11%、理工系で 5%、生物系で 4% であり、その伸び方には差があることがわかる。従前の採択研究課題総数の少なかった系ほど、伸びが目立つ結果となっている。

2004 年度は、2003 年度から用いられている新しい「細目表」による研究課題の審査・採択の 2 年目にあたる。初年度の 2003 年度には、6 割近くを占める継続研究課題について、申請すべき新しい「細目」分野が原則として指示されていた。このため、新しい「細目表」を用いて研究者自身が申請し採択された研究課題の状況が、調査結果に必ずしも明確に表れているとはいえなかった。そこで、2003 年度の採択研究課題数と比較しながら、「分野」・「分科」ごとに機関別に 2004 年度の採択研究課題数を見ていくことにする。なお、2003 年度の採択研究課題数には、「NII テクニカルレポート」(NII-2005-002J、004J、006J～008J(2005))として整理した後に発表された追加採択研究課題も含めた採択研究課題数を用いている。このため、「NII テクニカルレポート」(NII-2005-002J、004J、006J～008J(2005))の採択研究課題数とは異なることに注意されたい。

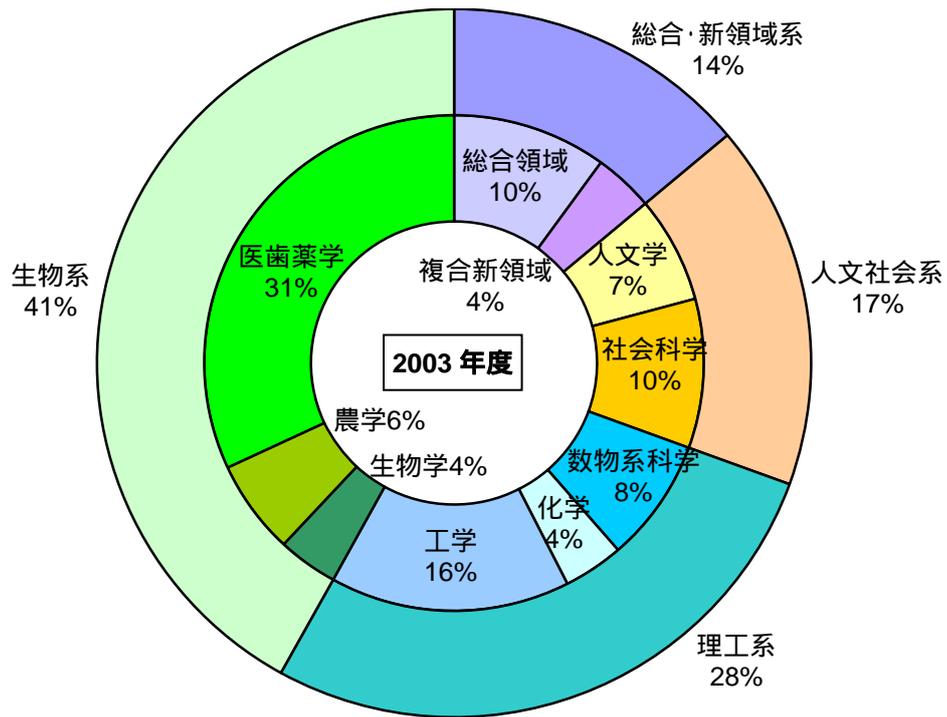


図1 - 2 - 1 2003年度科学研究費補助金の「系」別および「分野」別採択研究課題数の割合

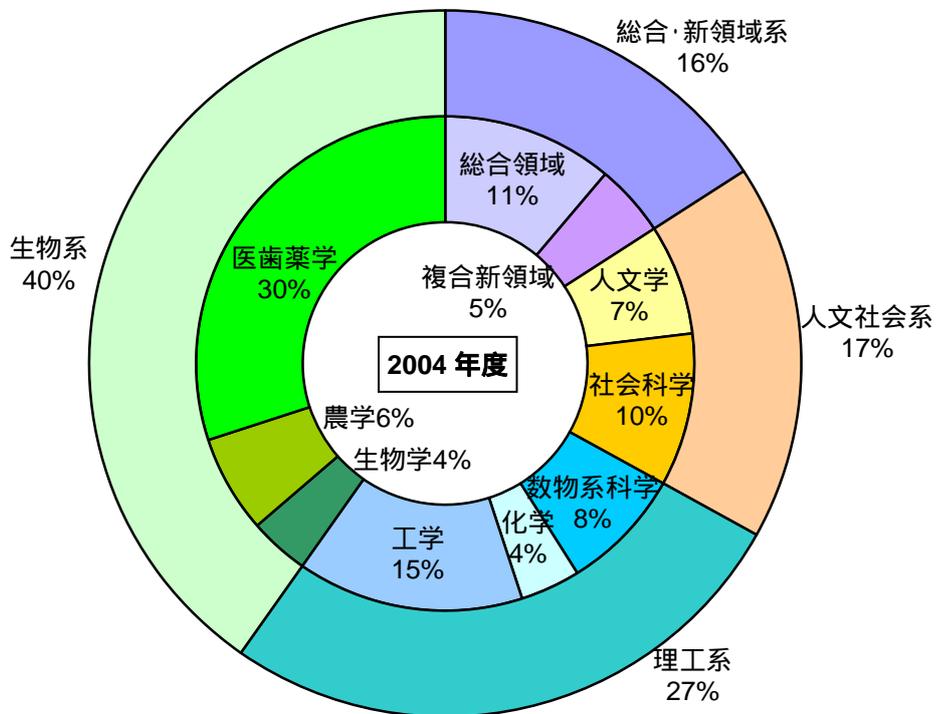


図1 - 2 - 2 2004年度科学研究費補助金の「系」別および「分野」別採択研究課題数の割合

3 . 調査研究に利用したデータベース

科学研究費補助金の採択研究課題名等については、「文部科学省科学研究費補助金採択課題・公募審査要覧」(ぎょうせい発行)として、毎年10月に公表・刊行されている。また、科学研究費補助金の採択研究課題名や成果概要等については、国立情報学研究所により「KAKEN(科学研究費成果公開サービス)」(URL: <http://seika.nii.ac.jp/>)としても公開されている。

本調査研究、特に個別課題研究費の分析には「KAKEN」に公開されているデータベースを用いた。本調査研究に用いた個別課題研究費のデータベース概要を表1-1に示した。「KAKEN」には年度当初の採択研究課題に加え年度途中での追加採択研究課題も含まれているため、「文部科学省科学研究費補助金採択課題・公募審査要覧」に掲載されている数値と一致しないことがある。

4 . 調査研究の具体的な分析方針

2003年度より新しい細目表が用いられていることを考慮し、2004年度の採択結果に2003年度の機関別採択研究課題数を併記し、新しい細目表による採択動向の影響を見ることとする。ただし、2003年度の途中から2004年度の研究課題の採択までの間に、大学の合併や名称変更などが行われている。2003年度の採択研究課題数を表記する場合には、この点を考慮して、合併前の大学の合算を行うなどの補正をしている。また、独立行政法人の改編に伴い申請時の機関名の記述が変更になったものもある。例えば、岡崎国立共同研究機関の分子科学研究所は、2003年度には機関：岡崎国立共同研究機関 / 部局：分子科学研究所であったものが、2004年度には機関：分子科学研究所となっている。このため、分子科学研究所の2003年度の採択研究課題数は0件となるなど、比較の難しいものもある。補正内容の詳細については個々に記さないの、注意されたい。

特別研究員奨励費を除く個別課題研究費では、科学研究費補助金採択研究課題数による大学の研究活性度を、科学研究費補助金申請および採択に用いられた新研究コードにしたがって整理した。基本的には前回の2003年度の分析方針と同じである。

これらの研究種目については次の方法で分析する。

- (1) 各「系」について、2004年度の科学研究費補助金の採択研究課題数の総数による機関別順位を50位まで整理する。
- (2) 各「分野」について、採択研究課題数による機関別順位を50位まで整理する。
- (3) 「分科」については、文学、法学、経済学、薬学等学部に対応するものもある。基本的には、各「分科」について採択研究課題数による機関別順位を30位まで整理する。ただし、採択研究課題数が1件以下と少ない場合には、2件までの順位とする。
- (4) 各「細目」については、2004年度の単年度のため調査件数が少ないことから、分析の対象にはしなかった。この点については、現在の「細目表」が用いられる5年間の採択研究課題数の動向をいずれ見るときに改めて分析対象としたい。

一方、特別研究員奨励費については、「KAKEN」に公開されているデータベース上では、基本的に2003年度に新規採用された特別研究員からの申請による研究課題では旧研究コードが用いられ、2003年度に追加採用および2004年度に新規採用された特別研究員からの申請による研究課題では新研究コードが用いられている。このため、特別研究員奨励費の採択研究課題では、旧研究コードにより分類される研究課題と新研究コードにより分類される研究課題が混在している。

表1-1 本調査研究に用いた個別課題研究費のデータベース概要(2004年度)

金額単位/千円

種目	分野	採択件数	配分額	種目	分野	採択件数	配分額
基盤研究(S)	総合領域	24	457,500	萌芽研究	総合領域	443	610,700
	複合新領域	20	410,100		複合新領域	238	368,800
	人文学	9	178,200		人文学	151	153,300
	社会科学	5	74,900		社会科学	215	238,200
	数物系科学	32	541,200		数物系科学	214	279,900
	化学	19	367,800		化学	189	312,600
	工学	62	1,161,600		工学	575	890,200
	生物学	21	383,100		生物学	141	228,700
	農学	19	330,200		農学	283	438,700
	医歯薬学	46	891,800		医歯薬学	1,237	1,844,700
基盤研究(A)	総合領域	168	1,711,100	若手研究(A)	総合領域	64	418,200
	複合新領域	164	1,647,700		複合新領域	40	299,200
	人文学	157	1,209,900		人文学	10	22,600
	社会科学	149	1,206,700		社会科学	15	61,800
	数物系科学	199	1,964,400		数物系科学	50	314,600
	化学	94	1,050,800		化学	48	318,100
	工学	368	3,861,000		工学	127	900,300
	生物学	94	998,600		生物学	32	212,900
	農学	146	1,401,000		農学	31	195,400
	医歯薬学	259	2,663,500		医歯薬学	86	579,200
基盤研究(B)	総合領域	823	3,658,900	若手研究(B)	総合領域	1,281	1,651,850
	複合新領域	469	2,238,200		複合新領域	413	573,700
	人文学	497	1,651,100		人文学	586	545,700
	社会科学	718	2,447,700		社会科学	1,084	1,098,298
	数物系科学	623	2,629,900		数物系科学	829	983,392
	化学	354	1,777,400		化学	420	633,200
	工学	1,392	6,542,700		工学	1,517	2,129,677
	生物学	321	1,620,600		生物学	400	594,200
	農学	724	3,276,800		農学	544	749,700
	医歯薬学	1,956	9,003,000		医歯薬学	3,009	4,174,754
基盤研究(C)	総合領域	1,590	2,074,900	特別研究員奨励費	全体	5,186*	5,114,952
	複合新領域	526	730,000				
	人文学	1,415	1,350,400				
	社会科学	1,693	1,721,600				
	数物系科学	1,236	1,431,200				
	化学	421	644,700				
	工学	1,795	2,510,900				
	生物学	485	727,000				
	農学	720	996,600				
	医歯薬学	5,256	7,386,100				
時限付き	249	387,600					

* 特別研究員奨励費には、細目番号不明の16件を含む。

したがって、特別研究員奨励費については次の方法で分析する。

- (1) 特別研究員奨励費全体の採択研究課題の総数(新・旧研究コードすべてを含む)による機関別順位を50位まで整理する。
- (2) 研究コードが混在しているため、旧研究コードの「部」と新研究コードの「分野」を、文系(部:文学、法学、経済学、分野:人文学、社会科学)、理工系(部:理学、工学、農学、分野:数物系科学、化学、工学、生物学、農学)、医系(部:医学、分野:医歯薬学)、融合系(部:複合領域、分野:総合領域、複合新領域)の4つに統合する。この4つの「系」について、採択研究課題数による機関別順位を50位まで整理する。
- (3) 各「部」および各「分野」についても、採択研究課題数による機関別順位を30位まで整理する。ただし、採択研究課題数が1件以下と少ない場合には、2件までの順位とする。なお、これらについては、「細目表」の変更をまたいでいるため個別の機関別順位には本質的な意味がないことに注意が必要である。

・科学研究費補助金採択研究課題数による大学の研究活性度：総合・新領域系編

1. 概要

2003年度より新しい細目表が用いられていることを考慮し、2004年度の採択結果に2003年度の機関別採択研究課題数を併記し、新しい細目表を用いた際の採択動向をみることにする。「総合・新領域系」全体での機関別採択研究課題数を表2-1に、その棒グラフを図2-1に示す。表から明らかのように、総合・新領域系全体としては、採択研究課題総数の多い「分科」は理工学を主とする研究分野が多いため、機関別順位には理工系と同様の傾向が見えている。2003年度と比較すると、全体として採択研究課題数が23%強増えていることがわかる。人文社会系の伸びが10%強で比較的大きかったことを考えると、総合・新領域系の伸びは圧倒的に大きい。東京大学を含め旧帝国大学の優位は変わらないが、2位の京都大学が採択研究課題数を大幅に伸ばし、1位の東京大学に迫っている。その他、東京工業大学、早稲田大学、千葉大学、電気通信大学、長崎大学、東京農工大学、東海大学、岐阜大学、横浜国立大学、和歌山大学、香川大学などが、2003年度と比較して、採択研究課題数を30%以上伸ばしている。

この総合・新領域系を「分野」別にわけてみると、図2-2に示すように、採択研究課題数の割合は分野：総合領域で70.1%、分野：複合新領域で29.9%であり、「分野」別の割合は2003年度とほとんど変化していない。「分野」別に採択研究課題総数を2003年度と比較すると、分野：総合領域の伸びが20%、分野：複合新領域の伸びが31%であり、どちらも他の「分野」の伸びよりかなり大きい。

表 2 - 1 総合・新領域系 採択研究課題数上位 50 位 (2004 年度)

金額単位/千円

順位	種別	機関名	2004年度		2003 件数
			件数	金額	
1	国	東京大学	304	1,556,900	257
2	国	京都大学	254	1,086,000	178
3	国	大阪大学	217	812,300	174
4	国	筑波大学	186	554,000	169
5	国	東北大学	170	545,000	145
6	国	東京工業大学	156	492,700	118
7	国	北海道大学	150	574,000	121
8	国	九州大学	119	362,500	107
9	国	名古屋大学	117	367,200	97
10	国	広島大学	104	202,800	95
11	私	早稲田大学	92	253,400	66
12	私	慶應義塾大学	84	241,200	65
13	他	理化学研究所	76	224,612	61
14	国	神戸大学	73	201,700	59
15	国	千葉大学	65	182,500	40
16	国	金沢大学	63	189,500	54
17	国	電気通信大学	60	120,400	45
18	国	信州大学	59	138,300	43
19	国	静岡大学	55	134,100	49
20	国	奈良先端科学技術大学院大学	54	123,500	47
21	国	岡山大学	53	145,900	45
22	国	北陸先端科学技術大学院大学	51	128,600	45
23	国	九州工業大学	50	102,000	44
24	国	長崎大学	47	104,500	33
24	国	鹿児島大学	47	101,700	36
26	国	徳島大学	46	93,900	40
27	他	産業技術総合研究所	45	176,600	33
27	国	群馬大学	45	95,800	40
29	公	東京都立大学	42	122,300	33
30	国	新潟大学	40	120,700	42
30	国	東京農工大学	40	92,700	27
30	公	大阪府立大学	40	81,000	34
33	他	国立情報学研究所	38	119,900	33
33	私	東海大学	38	71,000	26
35	国	東京医科歯科大学	37	125,600	34
35	公	大阪市立大学	37	108,800	29
35	国	岐阜大学	37	100,900	23
35	私	立命館大学	37	81,100	29
39	国	愛媛大学	35	93,700	27
39	国	熊本大学	35	87,100	33
39	国	名古屋工業大学	35	59,400	28
42	国	山口大学	33	51,000	25
43	公	広島市立大学	32	45,900	21
44	他	生理学研究所	31	120,500	0
44	国	横浜国立大学	31	95,300	19
46	国	和歌山大学	30	62,900	16
47	他	東京都医学研究機構	29	79,800	24
48	国	三重大学	28	55,400	24
49	私	日本大学	27	58,400	26
49	私	近畿大学	27	55,600	21
49	国	香川大学	27	54,200	13
		合計	6,263	16,850,850	5,078

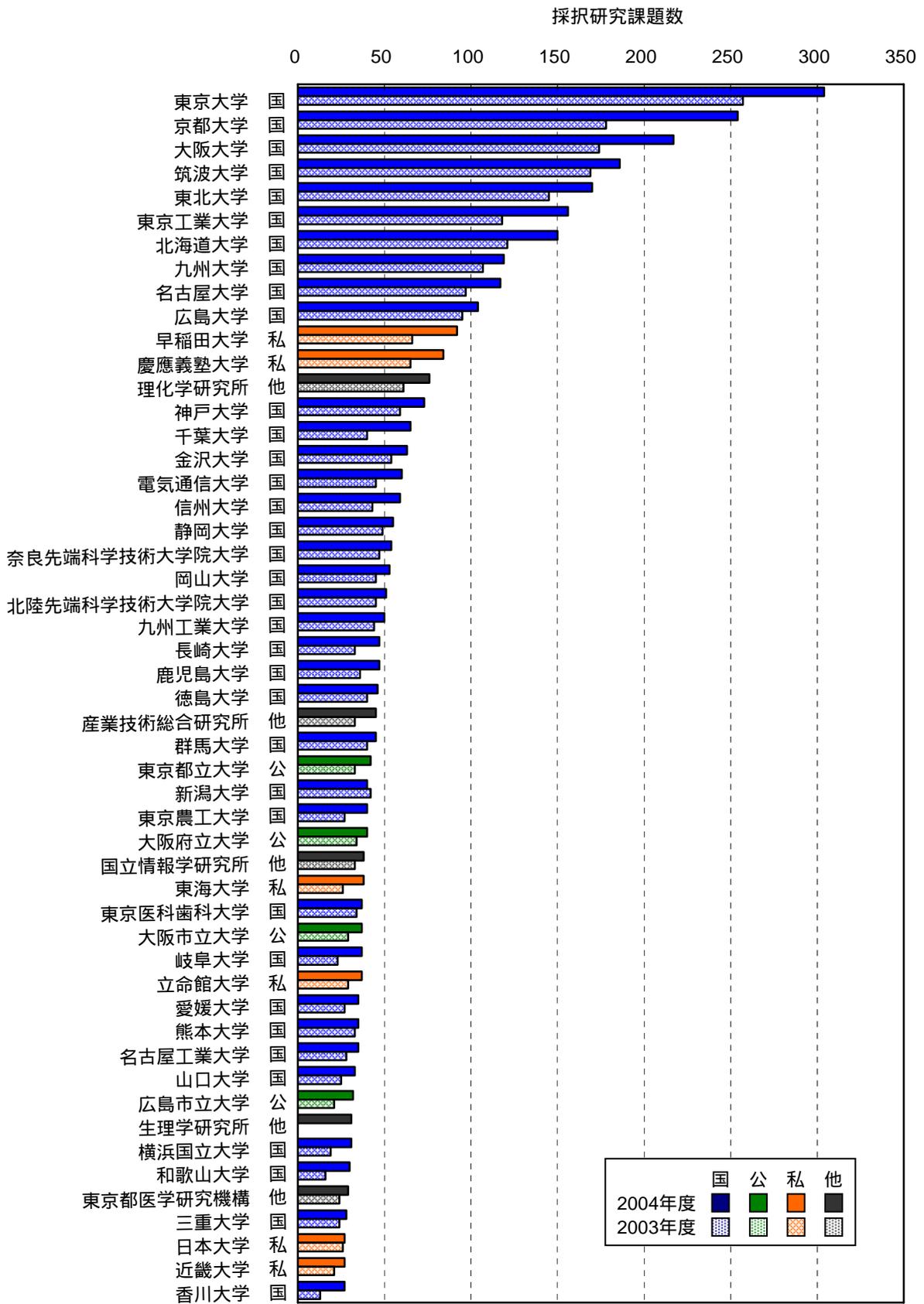


図 2 - 1 総合・新領域系 採択研究課題数上位 50 位 (2004 年度)

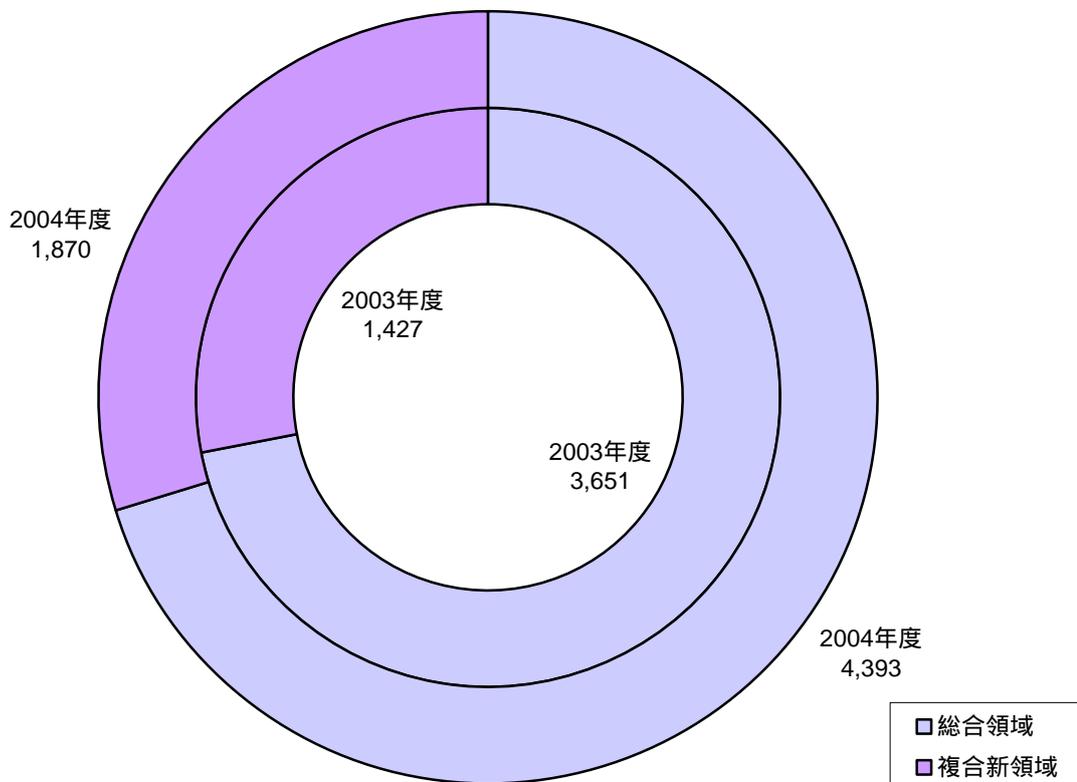


図 2 - 2 2003 年度(内周)と 2004 年度(外周)の総合・新領域系「分野」別採択研究課題数

分野:総合領域、複合新領域での採択研究課題数を機関別に整理したものの上位 50 位を表 2 - 2 に、棒グラフを図 2 - 3 - 1 ~ 2 - 3 - 2 にそれぞれ示す。総合領域、複合新領域ともに 2003 年度までの傾向とほぼ同じであるが、個々の分野の特徴も現れている。

分野：総合領域では、旧帝国大学と東京工業大学が上位を占めているが、それらの間に、筑波大学と早稲田大学が割って入る。奈良先端科学技術大学院大学や北陸先端科学技術大学院大学のような大学院大学、理化学研究所や国立情報学研究所のような研究機関が比較的上位に顔を出すのも特徴である。2003 年度と比較すると、大阪大学が採択研究課題数を伸ばし、筑波大学を逆転して 2 位に浮上している。同様に、採択研究課題数を伸ばして、東京工業大学が 6 位に、早稲田大学が 9 位に、千葉大学が 22 位に、和歌山大学が 34 位に、順位を上げている。逆に、全体に採択研究課題数を伸ばす中で、採択研究課題数を減らした東京女子医科大学が 50 位に落ちているのが目立つ。

分野：複合新領域でも、旧帝国大学と東京工業大学が上位を占め、その間に筑波大学が顔を覗かせている。2003 年度と比較すると、京都大学が大幅に採択研究課題数を伸ばし、東京大学を逆転して 1 位となっている。京都大学以外にも、北海道大学、理化学研究所、千葉大学、慶應義塾大学、東京農工大学、鹿児島大学、岐阜大学、横浜国立大学、信州大学、物質・材料研究機構、埼玉大学、琉球大学、東海大学、東京海洋大学などが採択研究課題数を 40% 以上伸ばしている。採択研究課題数を伸ばした大学が 40 位台に数多く現れている。

表2-2 総合・新領域系「分野」別採択研究課題数上位50位(2004年度)

金額単位/千円

総合領域					複合新領域						
順位	種別	機関名	2004年度		2003 件数	順位	種別	機関名	2004年度		2003 件数
			件数	金額					件数	金額	
1	国	東京大学	185	852,700	170	1	国	京都大学	130	529,400	82
2	国	大阪大学	146	509,300	122	2	国	東京大学	119	704,200	87
3	国	筑波大学	143	460,400	131	3	国	大阪大学	71	303,000	52
4	国	京都大学	124	556,600	96	4	国	北海道大学	70	265,700	48
5	国	東北大学	102	243,300	88	5	国	東北大学	68	301,700	57
6	国	東京工業大学	92	238,400	70	6	国	東京工業大学	64	254,300	48
7	国	九州大学	89	238,800	78	7	国	筑波大学	43	93,600	38
8	国	北海道大学	80	308,300	73	8	国	名古屋大学	41	172,700	33
9	私	早稲田大学	76	208,000	52	9	国	広島大学	38	96,400	38
9	国	名古屋大学	76	194,500	64	10	国	九州大学	30	123,700	29
11	国	広島大学	66	106,400	57	11	他	理化学研究所	28	94,400	19
12	私	慶應義塾大学	59	168,300	49	12	国	千葉大学	27	90,200	17
13	国	神戸大学	55	143,500	42	13	私	慶應義塾大学	25	72,900	16
14	国	電気通信大学	51	96,900	38	13	他	国立環境研究所	25	62,800	20
15	他	理化学研究所	48	130,212	42	15	国	金沢大学	24	88,900	18
16	国	奈良先端科学技術大学院大学	47	107,800	42	16	公	大阪府立大学	23	50,000	20
16	国	信州大学	47	94,800	35	17	国	東京農工大学	22	65,000	13
18	国	九州工業大学	44	87,200	40	18	国	長崎大学	20	54,700	16
19	国	北陸先端科学技術大学院大学	43	92,700	41	19	国	岡山大学	19	72,500	18
20	国	金沢大学	39	100,600	36	19	国	愛媛大学	19	69,400	16
20	国	群馬大学	39	89,300	31	21	国	神戸大学	18	58,200	17
22	他	国立情報学研究所	38	119,900	33	21	国	静岡大学	18	54,300	15
22	国	千葉大学	38	92,300	23	23	国	鹿児島大学	17	38,100	11
24	国	静岡大学	37	79,800	34	24	他	国立極地研究所	16	100,800	13
24	国	徳島大学	37	65,500	30	24	他	産業技術総合研究所	16	100,200	12
26	国	東京医科歯科大学	35	119,800	31	24	私	早稲田大学	16	45,400	14
27	国	岡山大学	34	73,400	27	24	国	熊本大学	16	42,700	12
28	国	新潟大学	31	89,800	33	28	公	東京都立大学	14	66,200	10
29	他	生理学研究所	30	119,000	0	28	国	岐阜大学	14	53,300	9
29	国	鹿児島大学	30	63,600	25	30	国	横浜国立大学	13	42,500	5
31	他	東京都医学研究機構	29	79,800	24	31	国	信州大学	12	43,500	8
31	他	産業技術総合研究所	29	76,400	21	31	他	物質・材料研究機構	12	33,300	6
31	私	東海大学	29	47,700	21	31	私	立命館大学	12	25,500	11
34	公	大阪市立大学	28	69,500	22	31	公	静岡県立大学	12	19,600	13
34	国	和歌山大学	28	60,800	15	35	私	日本大学	11	23,500	10
34	公	東京都立大学	28	56,100	23	35	私	東京理科大学	11	20,000	10
34	国	山口大学	28	30,900	21	35	国	名古屋工業大学	11	17,900	8
38	国	長崎大学	27	49,800	17	38	国	埼玉大学	10	47,400	6
38	公	広島市立大学	27	36,000	19	39	公	大阪市立大学	9	39,300	7
40	私	立命館大学	25	55,600	18	39	国	琉球大学	9	37,200	6
41	他	統計数理研究所	24	59,200	23	39	国	新潟大学	9	30,900	9
41	国	名古屋工業大学	24	41,500	20	39	国	徳島大学	9	28,400	10
43	国	岐阜大学	23	47,600	14	39	国	電気通信大学	9	23,500	7
43	私	東京電機大学	23	45,300	15	39	私	東海大学	9	23,300	5
45	国	奈良女子大学	22	77,000	25	39	私	近畿大学	9	13,900	7
45	他	筑波技術短期大学	22	35,200	27	46	国	島根大学	8	42,300	6
47	他	メディア教育開発センター	21	61,700	17	46	国	東京海洋大学	8	41,300	5
48	国	宇都宮大学	20	34,300	17	46	国	北陸先端科学技術大学院大学	8	35,900	4
48	国	三重大学	20	31,100	16	46	公	兵庫県立大学	8	31,800	6
50	私	東京女子医科大学	19	62,500	26	46	国	三重大学	8	24,300	8
50	私	福岡大学	19	48,900	16	46	国	一橋大学	8	23,700	6
50	国	熊本大学	19	44,400	21	46	国	宮崎大学	8	21,500	6
50	国	香川大学	19	36,700	11	46	他	放射線医学総合研究所	8	20,400	7
50	国	山梨大学	19	28,000	18	46	国	香川大学	8	17,500	2
合計			4,393	10,583,150	3,651	合計			1,870	6,267,700	1,427

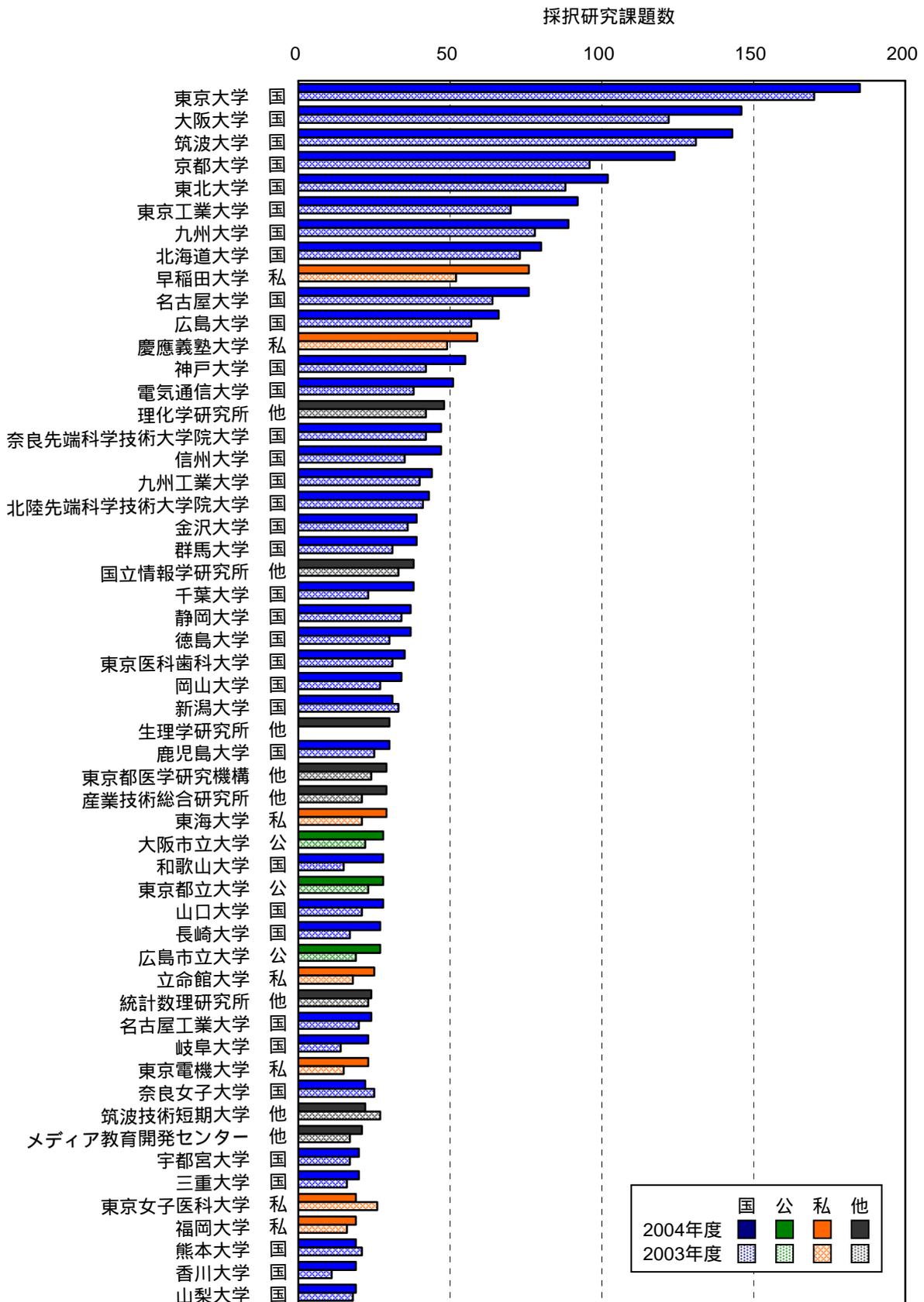


図 2 - 3 - 1 総合領域 採択研究課題数上位 50 位 (2004 年度)

採択研究課題数

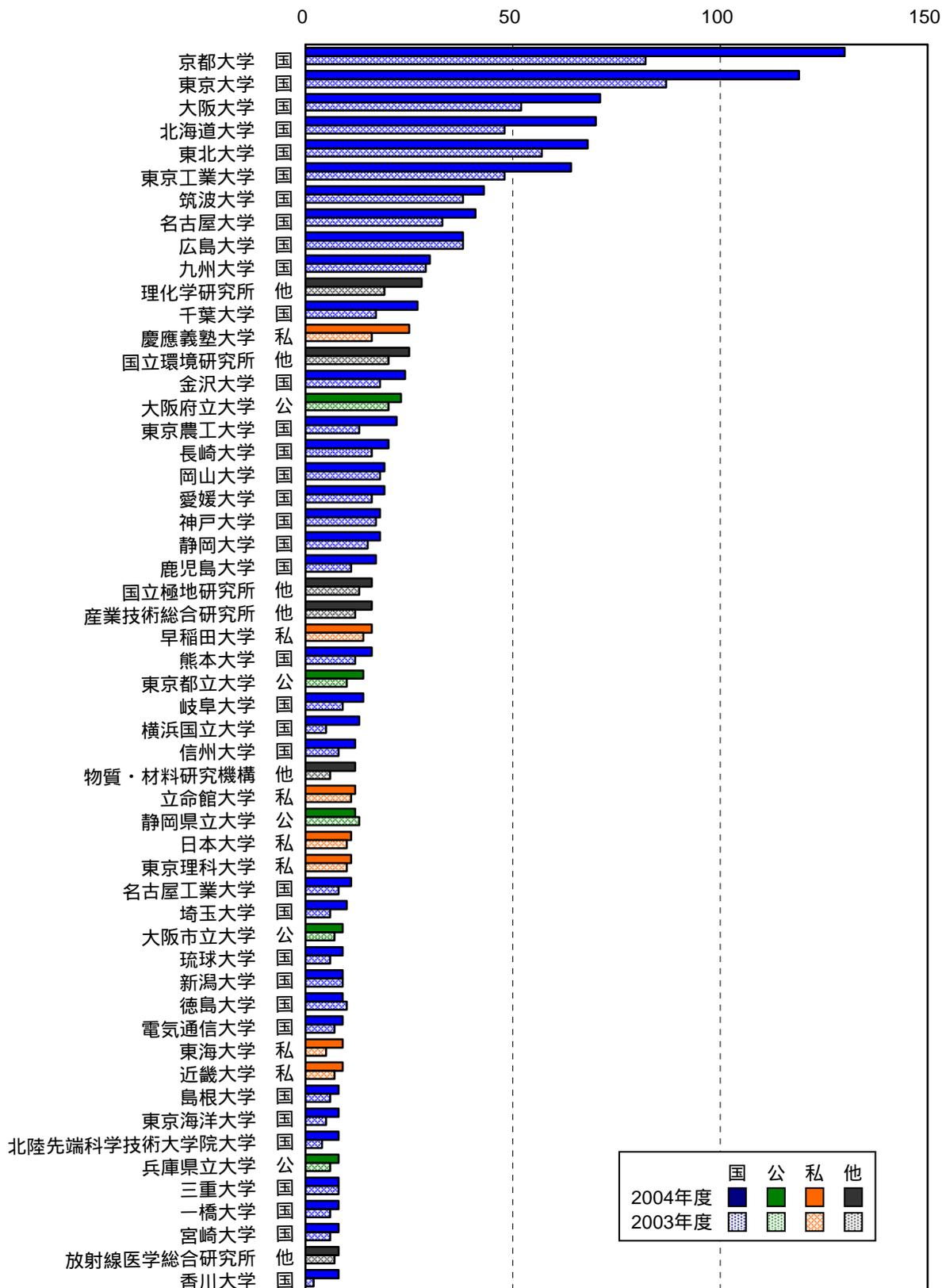


図 2 - 3 - 2 複合新領域 採択研究課題数上位 50 位 (2004 年度)

2 . 分野別

2 - 1 総合領域

分野：総合領域の中の情報学、神経科学、実験動物学、人間医工学、健康・スポーツ科学、生活科学、科学教育・教育工学、科学社会学・科学技術史、文化財科学、地理学の「分科」ごとの科学研究費補助金採択研究課題数を図2 - 4の円グラフに示す。

図2 - 4から明らかなように、分科：実験動物学、科学社会学・科学技術史、文化財科学、地理学は、採択研究課題数が少なく、他の「分科」の「細目」に相当する採択研究課題数の規模となっている。このため、単年度のみでの採択研究課題数を用いた大学間の研究活性度の比較を行う場合は、統計的な意味が他の分科と異なる点に多少注意する必要がある。

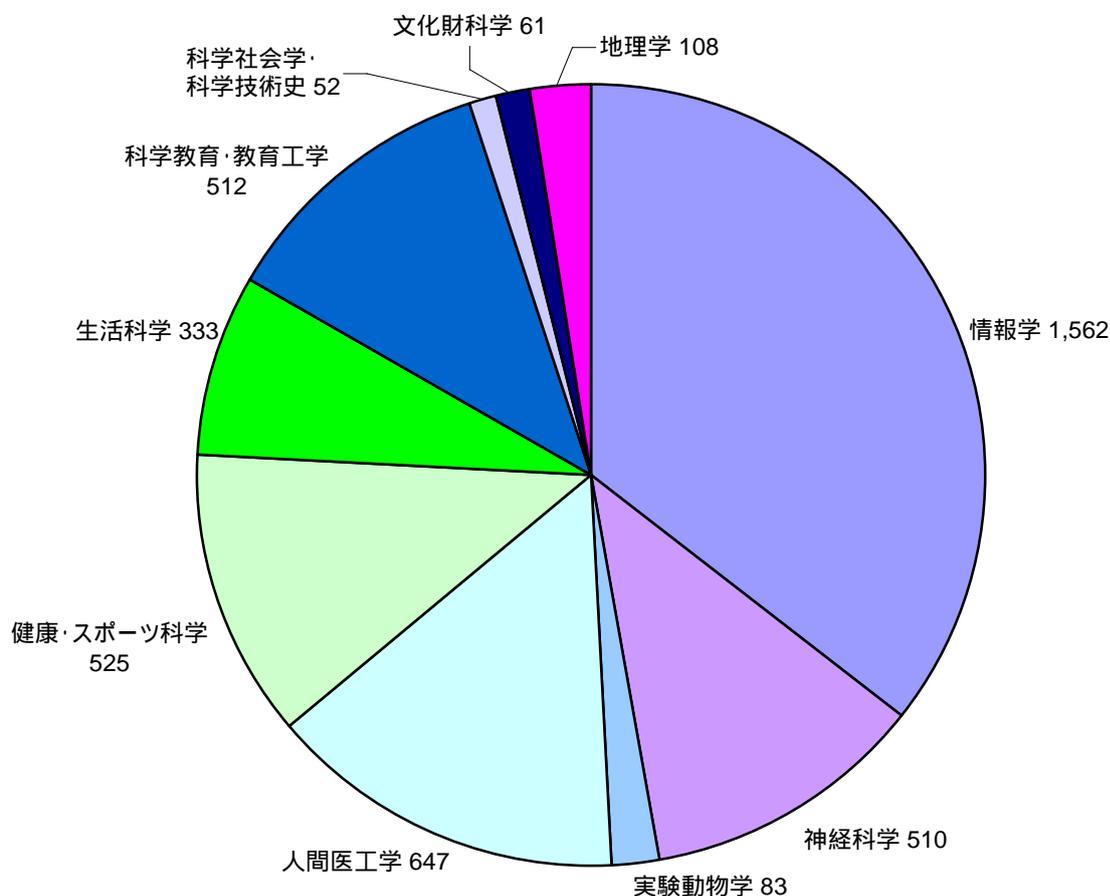


図2 - 4 総合領域「分科」別採択研究課題数（2004年度）

2003年度と比較すると、分野：総合領域の採択研究課題総数は約20%増えているが、「分科」により採択研究課題総数の増分には差があることがわかる。採択研究課題総数が少ない分科では、分科：実験動物学、文化財科学が採択研究課題総数を減らし、分科：科学社会学・科学技術史、地理学がそれぞれ13%、10%の伸びに留まっている。これに対して、もっとも採択研究課題総数が増えたのは分

科：情報学であり、約 30%伸びている。比較的規模の大きい分科：人間医工学、健康・スポーツ科学では、前年度比の採択研究課題数の伸びが、それぞれ 28%、27%と比較的大きいこともわかる。

以下、情報学、神経科学、実験動物学、人間医工学、健康・スポーツ科学、生活科学、科学教育・教育工学、科学社会学・科学技術史、文化財科学、地理学の各「分科」について、I 章で述べた方針にしたがって上位 30 位までを表にまとめ、表 2 - 3 - 1 ~ 2 - 3 - 5 に示す。表に対応した各「分科」の機関別の棒グラフを図 2 - 5 - 1 ~ 2 - 5 - 6 に示す。分科：実験動物学、科学社会学・科学技術史、文化財科学、地理学は採択研究課題数が少ないので、棒グラフでは省略することとする。

分科：情報学では、大阪大学が採択研究課題数を伸ばし 2003 年度の 3 位から 1 位に躍進し、2003 年度 2 位であった筑波大学が 4 位に後退している。早稲田大学、和歌山大学、神戸大学、産業技術総合研究所、山口大学、東京電機大学が採択研究課題数を前年度比 50%以上伸ばしている。

採択研究課題総数が前年度比で約 9%しか伸びなかった分科：神経科学では、2003 年度 1 位の東京大学、6 位の東北大学が採択研究課題数を減らし 2 位、12 位にそれぞれ後退している。

分科：人間医工学も、情報学と同様に、2003 年度と比較して採択研究課題総数の伸びが 28%と大きい。その中で、東京女子医科大学、九州大学などが採択研究課題数を減らしたのが目立つ。

分科：健康・スポーツ科学でも、前年度比 23%と伸びが比較的大きい。早稲田大学、慶應義塾大学の伸びが大きく、それぞれ 2 位、13 位となっている。逆に、鹿屋体育大学が採択研究課題数を減らし 4 位から 8 位に後退している。

分科：生活科学では、2003 年度と比較して約 7%しか伸びていない。順位に大きな変動はないが、お茶の水女子大学が 3 位から 5 位に後退し、同志社女子大学、名古屋文理大学、神戸大学が 2003 年度のランク外から 30 位以内に顔を覗かせている。

分科：科学教育・教育工学では、筑波技術短期大学が 2003 年度の 4 位から 7 位に後退し、名古屋大学が 8 位から 12 位に後退している。逆に、東京工業大学、信州大学、上越教育大学などが採択研究課題数を伸ばし上位に進出している。

採択研究課題総数の少ない分科：実験動物学、科学社会学・科学技術史、文化財科学、地理学では、2003 年度と比較しても、1~2 件しか採択研究課題数が変わらないため、大きな変化はないといえる。

表2 - 3 - 2 総合領域「分科」別採択研究課題数上位30位(2004年度)(2)

金額単位/千円

実験動物学					人間医工学						
順位	種別	機関名	2004年度		2003 件数	順位	種別	機関名	2004年度		2003 件数
			件数	金額					件数	金額	
1	国	京都大学	6	30,600	6	1	国	東京大学	35	199,100	30
1	国	東京大学	6	8,100	5	1	国	東北大学	35	125,600	27
3	国	熊本大学	5	17,800	6	3	国	大阪大学	30	120,500	26
3	他	実験動物中央研究所	5	14,400	8	4	国	北海道大学	26	118,000	21
5	他	理化学研究所	4	17,600	4	5	私	慶應義塾大学	16	41,000	14
5	国	筑波大学	4	15,400	2	6	国	京都大学	15	114,200	15
7	国	長崎大学	3	7,500	3	6	私	東京女子医科大学	15	48,600	23
7	私	順天堂大学	3	7,300	4	6	国	鹿児島大学	15	32,500	10
7	国	名古屋大学	3	6,300	2	9	国	東京医科歯科大学	14	48,100	14
10	国	滋賀医科大学	2	10,300	3	10	国	名古屋大学	12	29,800	11
10	他	東京都医学研究機構	2	8,900	2	11	国	信州大学	11	28,800	7
10	国	大阪大学	2	6,500	4	11	私	北里大学	11	18,100	8
10	私	東海大学	2	6,000	1	13	私	川崎医科大学	10	28,500	7
10	国	信州大学	2	5,200	3	13	国	広島大学	10	16,700	9
10	国	静岡大学	2	5,100	1	13	私	東海大学	10	13,300	8
10	国	徳島大学	2	3,400	2	16	国	九州大学	9	43,500	11
10	国	宮崎大学	2	2,000	1	17	国	東京工業大学	8	42,200	6
						17	国	岡山大学	8	20,400	7
						17	私	自治医科大学	8	17,500	5
						20	他	国立循環器病センター研究所	7	21,800	7
						20	国	奈良先端科学技術大学院大学	7	16,200	7
						20	私	関西大学	7	14,400	6
						23	他	物質・材料研究機構	6	34,800	4
						23	国	千葉大学	6	23,600	3
						23	国	金沢大学	6	18,000	5
						23	他	理化学研究所	6	17,300	5
						23	他	産業技術総合研究所	6	16,200	4
						23	国	徳島大学	6	14,500	6
						23	公	札幌医科大学	6	14,200	4
						23	私	東京電機大学	6	12,900	6
						23	国	香川大学	6	11,600	4
						23	他	筑波技術短期大学	6	11,300	6
						23	私	近畿大学	6	7,400	5
						23	公	広島県立保健福祉大学	6	5,300	4
合計			83	262,300	89	合計			647	1,930,700	506

表2 - 3 - 4 総合領域「分科」別採択研究課題数上位30位(2004年度)(4)

金額単位/千円

科学教育・教育工学					科学社会学・科学技術史						
順位	種別	機関名	2004年度		2003 件数	順位	種別	機関名	2004年度		2003 件数
			件数	金額					件数	金額	
1	他	メディア教育開発センター	19	60,000	15	1	国	東京工業大学	4	5,000	4
2	国	広島大学	17	34,800	14	1	国	東京大学	4	3,700	3
3	他	国立教育政策研究所	14	70,000	15	3	国	北海道大学	3	5,500	1
4	国	東京工業大学	13	31,200	9	3	国	京都大学	3	3,000	2
5	国	静岡大学	12	29,600	11	5	私	立命館大学	2	7,300	1
5	私	早稲田大学	12	22,400	11	5	国	神戸大学	2	4,700	3
7	国	信州大学	10	22,400	7	5	公	愛知県立大学	2	3,200	1
7	他	筑波技術短期大学	10	19,600	12	5	国	広島大学	2	2,600	2
7	国	上越教育大学	10	13,600	7	5	私	東京理科大学	2	2,600	0
10	国	東京学芸大学	9	24,600	7	5	私	東洋大学	2	1,800	2
10	国	愛知教育大学	9	9,200	8	5	私	京都産業大学	2	1,600	2
12	国	名古屋大学	8	29,400	8						
12	国	筑波大学	8	18,500	8						
12	国	岐阜大学	8	17,900	4						
15	国	東京大学	7	17,000	5						
15	私	金沢工業大学	7	8,700	7						
15	他	大学入試センター	7	5,400	5						
18	国	神戸大学	6	29,600	6						
18	国	大阪大学	6	20,300	5						
18	他	国立科学博物館	6	15,000	4						
18	国	埼玉大学	6	12,300	4						
18	国	徳島大学	6	11,300	5						
18	国	富山大学	6	9,000	5						
24	国	北海道大学	5	36,300	6						
24	国	長崎大学	5	18,900	2						
24	国	千葉大学	5	10,900	5						
24	国	九州大学	5	10,900	4						
24	国	鳴門教育大学	5	9,000	4						
24	国	兵庫教育大学	5	8,300	6						
24	私	東海大学	5	8,100	3						
24	国	宇都宮大学	5	6,100	4						
24	国	福井大学	5	4,500	5						
24	国	愛媛大学	5	3,800	3						
合計			512	1,058,700	447	合計			52	75,500	46

表 2 - 3 - 5 総合領域「分科」別採択研究課題数上位 30 位 (2004 年度)(5)

金額単位/千円

文化財科学					地理学						
順位	種別	機関名	2004年度		2003 件数	順位	種別	機関名	2004年度		2003 件数
			件数	金額					件数	金額	
1	他	東京文化財研究所	6	21,600	6	1	公	東京都立大学	11	25,100	10
2	他	元興寺文化財研究所	5	4,200	7	2	国	東京大学	10	49,300	8
3	他	奈良文化財研究所	4	33,200	3	3	国	筑波大学	8	27,800	6
4	私	早稲田大学	2	8,900	2	4	国	名古屋大学	6	13,800	6
4	他	国立歴史民俗博物館	2	7,900	5	5	国	京都大学	3	31,300	2
4	国	富山大学	2	6,400	2	5	国	千葉大学	3	13,800	2
4	国	東北大学	2	4,300	0	5	国	広島大学	3	7,000	4
4	国	京都大学	2	4,100	4	5	国	東北大学	3	6,600	2
4	私	京都造形芸術大学	2	4,000	2	5	国	琉球大学	3	4,400	4
4	国	名古屋大学	2	1,800	2	10	国	岡山大学	2	6,800	1
						10	私	立命館大学	2	6,700	2
						10	国	金沢大学	2	5,200	2
						10	私	日本大学	2	5,000	3
						10	国	奈良女子大学	2	4,000	1
						10	国	東京学芸大学	2	3,500	2
						10	国	長崎大学	2	3,300	1
						10	国	上越教育大学	2	2,800	2
						10	私	慶應義塾大学	2	1,100	2
合計			61	186,000	64	合計			108	267,800	98

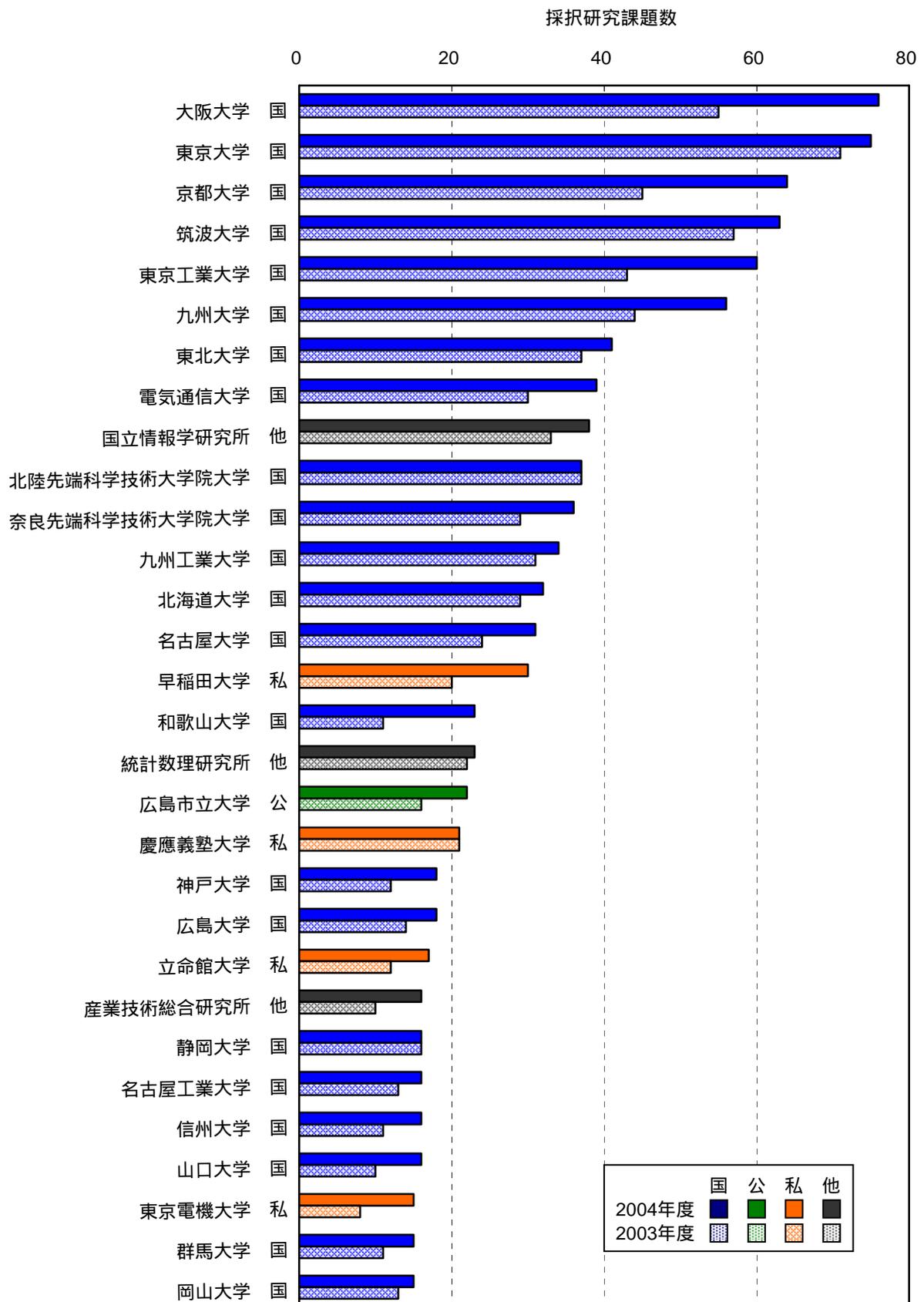


図 2 - 5 - 1 情報学 採択研究課題数上位 30 位 (2004 年度)

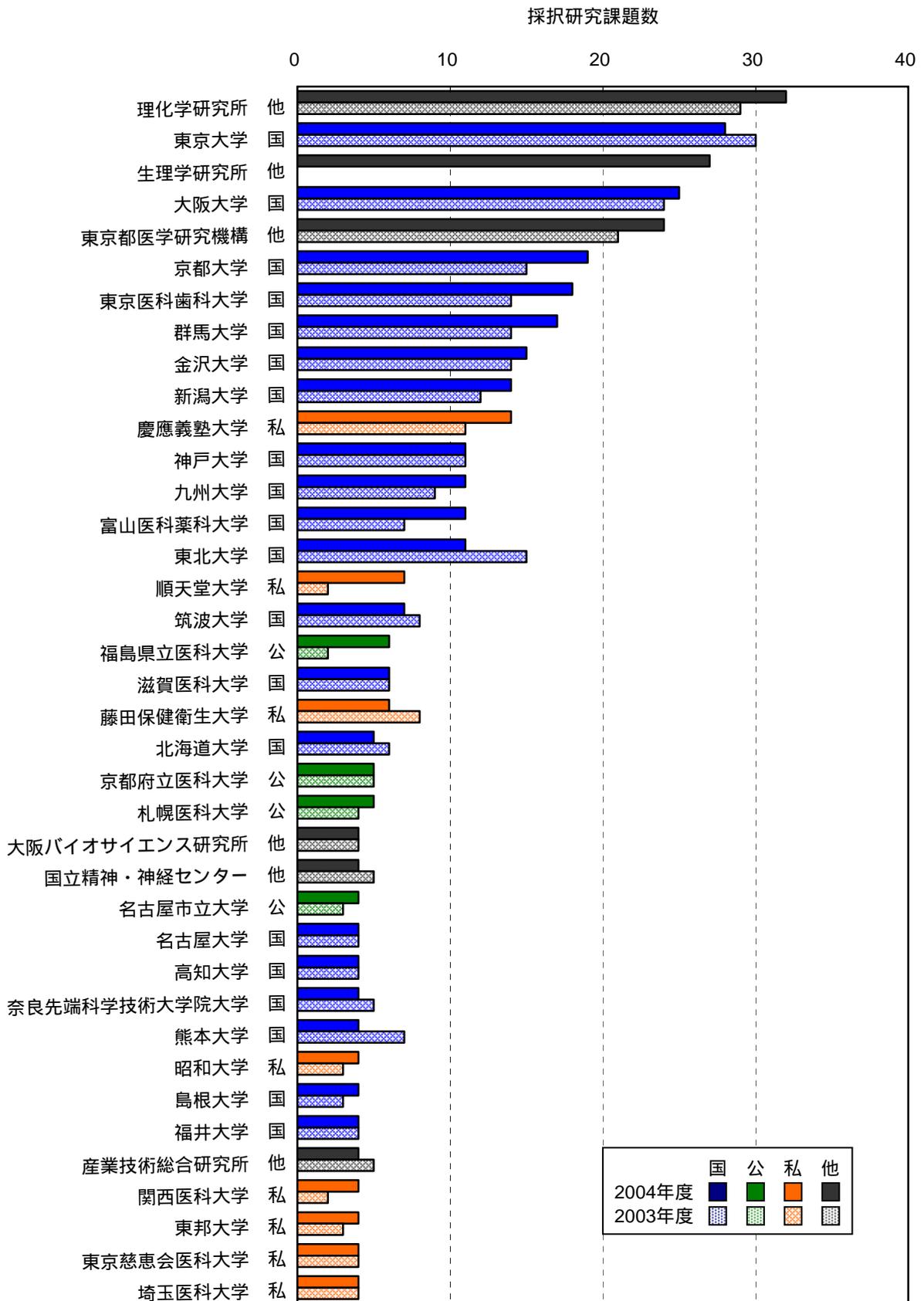


図 2 - 5 - 2 神経科学 採択研究課題数上位 30 位 (2004 年度)

採択研究課題数

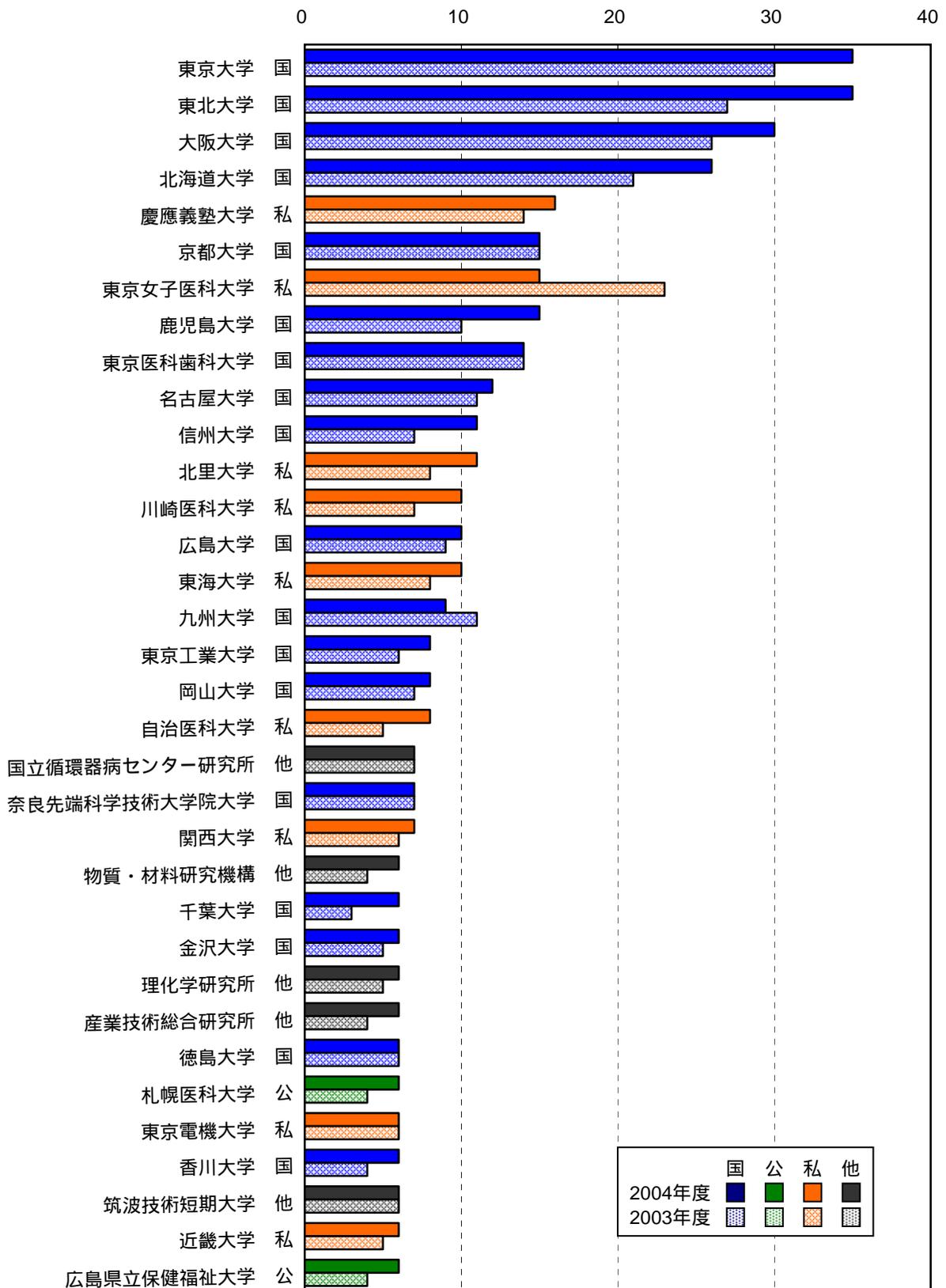


図 2 - 5 - 3 人間医工学 採択研究課題数上位 30 位 (2004 年度)

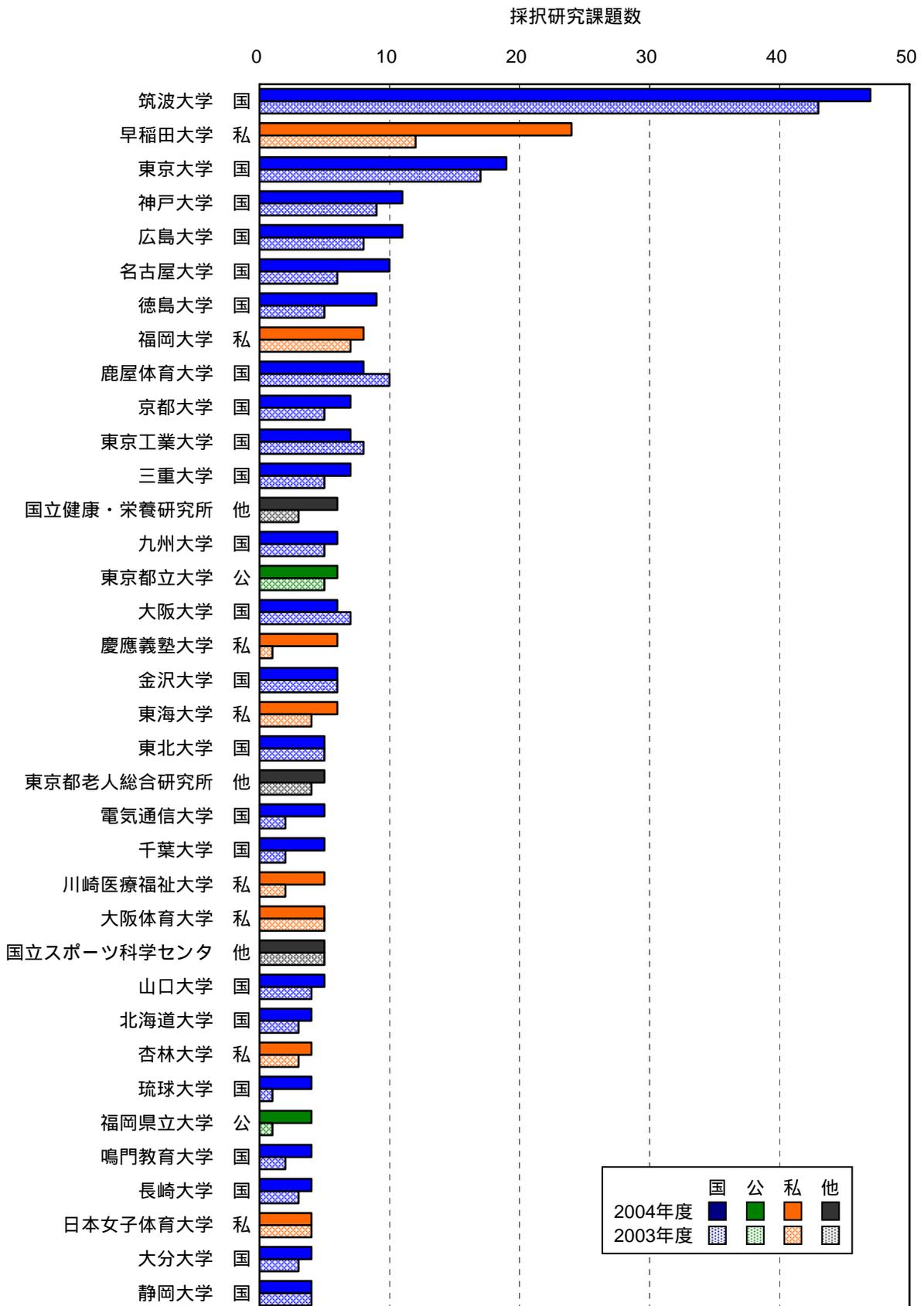


図 2 - 5 - 4 健康・スポーツ科学 採択研究課題数上位 30 位 (2004 年度)

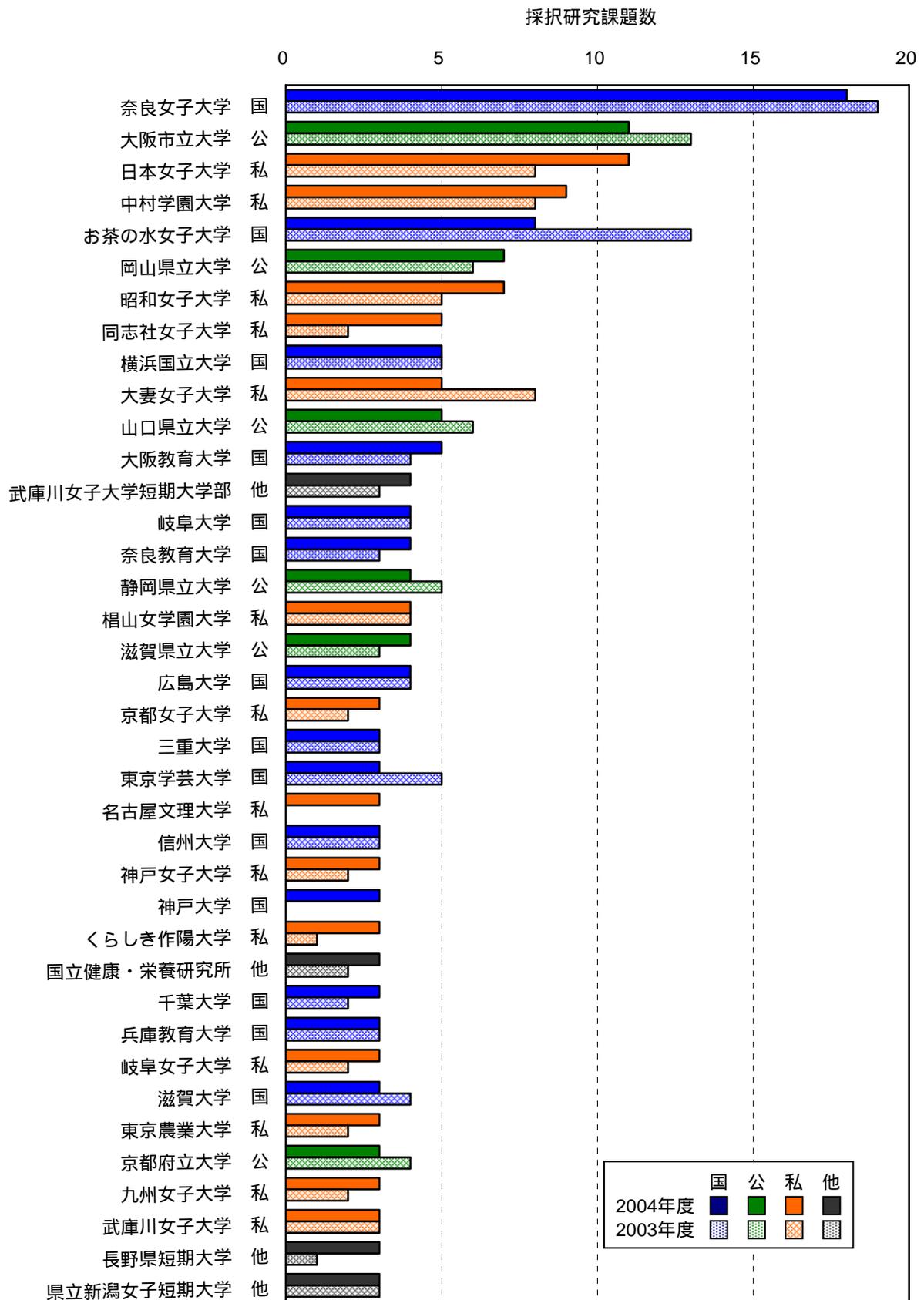


図 2 - 5 - 5 生活科学 採択研究課題数上位 30 位 (2004 年度)

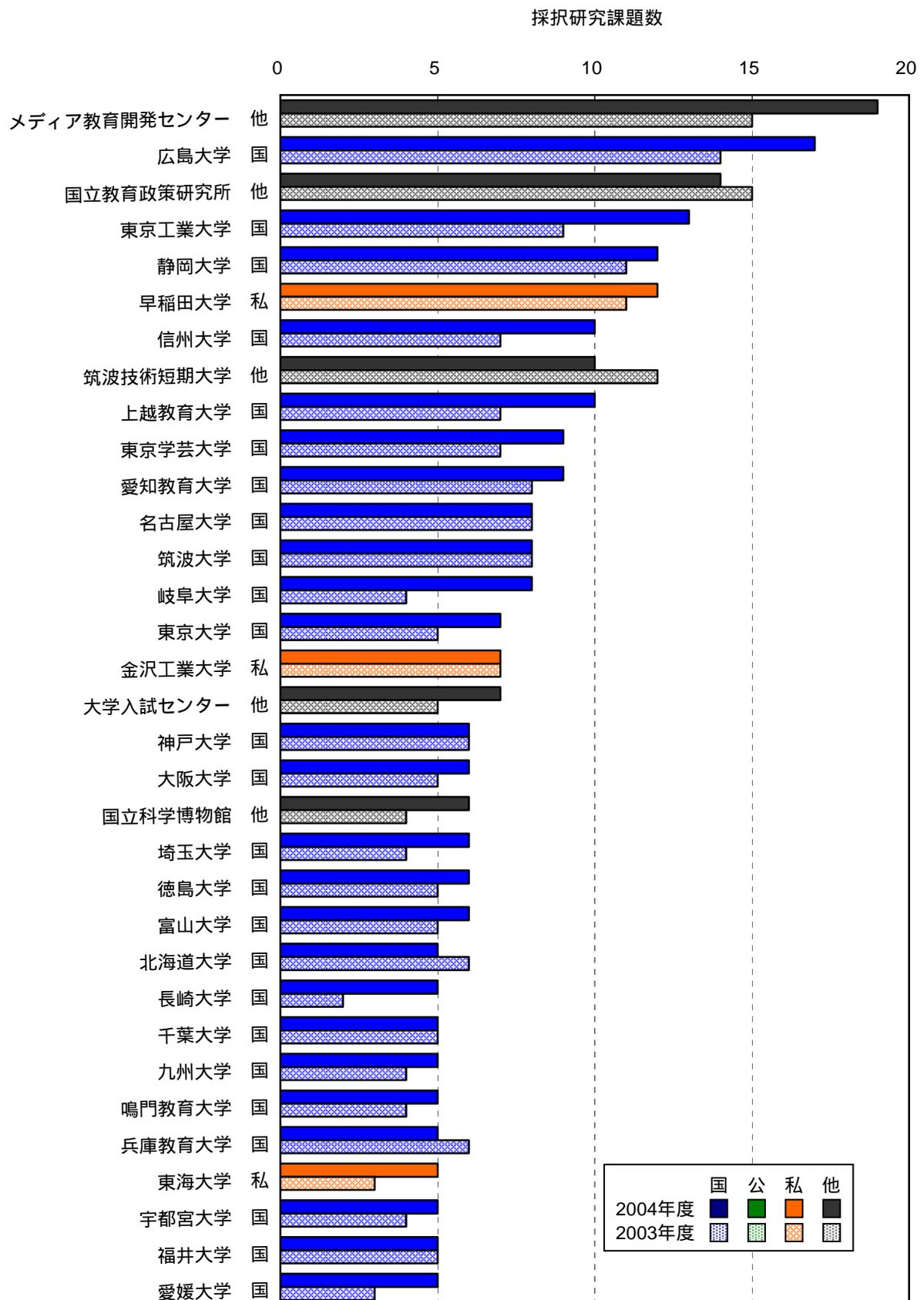


図 2 - 5 - 6 科学教育・教育工学 採択研究課題数上位 30 位 (2004 年度)

2 - 2 複合新領域

分野：複合新領域の中の環境学、ナノ・マイクロ科学、社会・安全システム科学、ゲノム科学、生物分子科学、資源保全学、地域研究、ジェンダーの「分科」ごとの採択研究課題数を図2 - 6の円グラフに示す。

分野：総合領域と同様に、採択研究課題総数が100件程度から100件以下の分科：ゲノム科学、生物分子科学、資源保全学、地域研究、ジェンダーは、他の「分科」の「細目」に相当する採択研究課題数の規模となっている。このため、単年度のみ採択研究課題数を用いた大学間の研究活性度の比較を行う場合は、統計的な意味が他の分科と異なる点に多少注意する必要がある。

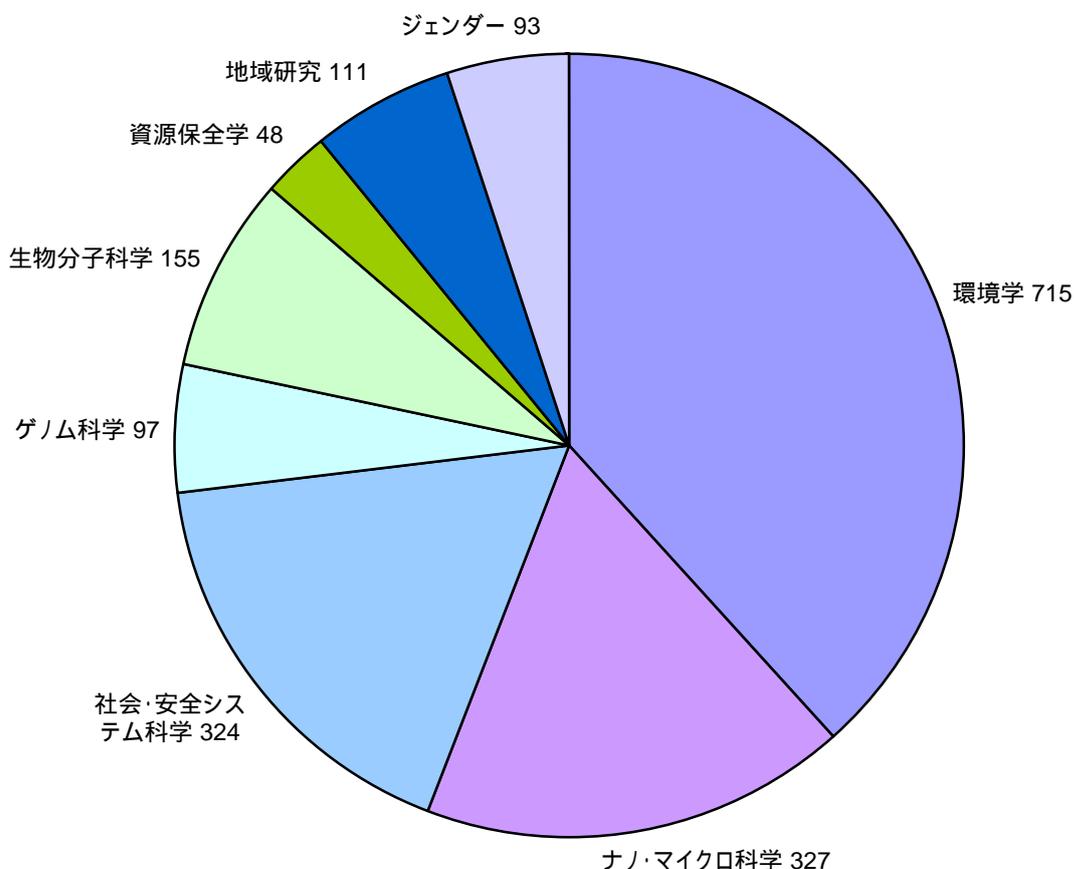


図2 - 6 複合新領域「分科」別採択研究課題数（2004年度）

2003年度と比較すると、分野：複合新領域の採択研究課題総数は約31%増えているが、「分科」により採択研究課題総数の増分には差があることがわかる。2003年度と比較すると、もっとも採択研究課題総数が増えたのは分科：ゲノム科学であり、倍以上に伸びている。これに対して、分科：ジェンダーでは採択研究課題総数は同数で伸びていない。分野：総合領域では、採択研究課題総数の小さな「分科」については前年度比の伸び率が小さい傾向があったが、分野：複合新領域では、そのような傾向は明瞭ではない。比較的規模の大きい分科：社会・安全システム科学の前年度比の伸びが8%に

留まっているのに対して、比較的規模の小さい分科：地域研究の前年度比の伸びが59%になっている。

以下、環境学、ナノ・マイクロ科学、社会・安全システム科学、ゲノム科学、生物分子科学、資源保全学、地域研究、ジェンダーの各「分科」について、I章で述べた方針にしたがって上位30位までを表にまとめ、表2-4-1～2-4-4に示す。表に対応した各「分科」の機関別の棒グラフを図2-7-1～2-7-3に示す。分科：ゲノム科学、生物分子科学、資源保全学、地域研究、ジェンダーは採択研究課題数が少ないので、棒グラフでは省略することとする。

まず、分科：環境学では、採択研究課題総数は2003年度と比較して19%伸びている。1位の京都大学が採択研究課題数を伸ばし2位以下との差を広げている。国立環境研究所、東京工業大学、東京農工大学、岐阜大学などが採択研究課題数を増やし、広島大学、名古屋大学などが採択研究課題数を減らしている。

分科：ナノ・マイクロ科学では、採択研究課題総数を大幅に伸ばし、2003年度の2倍近くになっている。2003年度と比較して上位の顔ぶれに大きな変動はないが、北海道大学の採択研究課題数が3倍以上に増えているのが目立つ。同様に、筑波大学、名古屋大学、電気通信大学、信州大学なども採択研究課題数を伸ばしている。

分科：社会・安全システム科学では、大きな順位の変動はないが、京都大学が採択研究課題数を伸ばし1位となり、採択研究課題数を減らした東京大学を逆転している。

分科：ゲノム科学では、100件に届かないとはいえ採択研究課題総数が倍増し、2件以上の採択研究課題数となる研究機関の数も増えている。特に、東京大学、京都大学が大きく採択研究課題数を伸ばしているのがわかる。

分科：生物分子科学でも前年比4割以上採択研究課題総数が増えている。中でも、北海道大学や名古屋大学、千葉大学などの採択研究課題数が増えている。

分科：資源保全学、地域研究、ジェンダーでは、2003年度と比較しても、1～2件しか採択研究課題数が変わらないため、大きな変化はない。ただし、分科：地域研究では、京都大学が採択研究課題数を大幅に伸ばし、2位以下との差を広げているのがわかる。

表2 - 4 - 1 複合新領域「分科」別採択研究課題数上位30位(2004年度)(1)

金額単位/千円

環境学					ナノ・マイクロ科学						
順位	種別	機関名	2004年度		2003 件数	順位	種別	機関名	2004年度		2003 件数
			件数	金額					件数	金額	
1	国	京都大学	44	185,700	34	1	国	東北大学	27	140,200	16
2	国	東京大学	36	201,300	30	2	国	大阪大学	23	107,700	15
3	国	北海道大学	30	107,400	28	3	国	東京大学	21	136,100	10
4	他	国立環境研究所	24	61,400	18	3	国	東京工業大学	21	124,600	12
4	国	広島大学	24	60,600	26	5	国	京都大学	17	74,300	8
6	国	東北大学	23	98,700	22	6	国	北海道大学	13	46,000	4
6	国	名古屋大学	23	88,800	25	7	国	九州大学	11	26,100	8
8	他	国立極地研究所	16	100,800	13	8	国	東京農工大学	9	31,600	4
8	国	金沢大学	16	60,000	12	9	他	物質・材料研究機構	8	23,900	3
8	国	長崎大学	16	50,200	14	10	他	理化学研究所	7	30,700	4
11	国	大阪大学	15	72,600	16	10	他	分子科学研究所	7	26,700	0
11	国	東京工業大学	15	34,500	11	10	私	慶應義塾大学	7	14,400	4
13	国	筑波大学	13	41,400	12	13	国	北陸先端科学技術大学院大学	6	33,400	3
14	国	愛媛大学	11	56,300	11	13	国	筑波大学	6	18,600	2
14	公	大阪府立大学	11	21,000	12	15	国	名古屋大学	5	30,700	1
16	国	熊本大学	10	30,700	7	15	国	神戸大学	5	21,900	4
16	国	東京農工大学	10	27,200	6	15	国	電気通信大学	5	16,400	1
16	公	静岡県立大学	10	10,800	10	15	国	九州工業大学	5	14,100	2
19	国	九州大学	9	53,600	7	19	他	産業技術総合研究所	4	40,500	2
19	国	岐阜大学	9	29,900	5	19	国	信州大学	4	27,200	1
19	国	鹿児島大学	9	23,900	6	19	公	大阪府立大学	4	19,000	3
22	国	静岡大学	8	28,300	8	19	国	岡山大学	4	12,600	3
22	他	放射線医学総合研究所	8	20,400	7	19	国	鹿児島大学	4	7,700	2
22	国	千葉大学	8	20,000	8	19	他	神奈川科学技術アカデミー	4	7,700	2
25	国	島根大学	7	40,200	6	25	国	金沢大学	3	18,000	3
25	他	産業技術総合研究所	7	39,600	8	25	国	豊橋技術科学大学	3	13,400	3
27	国	茨城大学	6	33,700	4	25	国	静岡大学	3	11,500	2
27	公	東京都立大学	6	31,600	5	25	他	高輝度光科学研究センター	3	8,800	2
27	国	三重大学	6	20,400	6	25	国	横浜国立大学	3	6,300	1
27	他	総合地球環境学研究所	6	18,800	5	25	国	名古屋工業大学	3	6,300	1
27	私	産業医科大学	6	18,100	3	25	国	佐賀大学	3	6,200	2
合計			715	2,408,000	601	合計			327	1,374,300	173

表2 - 4 - 3 複合新領域「分科」別採択研究課題数上位30位(2004年度)(3)

金額単位/千円

生物分子科学					資源保全学						
順位	種別	機関名	2004年度		2003 件数	順位	種別	機関名	2004年度		2003 件数
			件数	金額					件数	金額	
1	国	大阪大学	14	43,600	8	1	国	東京大学	5	39,900	4
2	国	東京大学	13	102,700	7	2	国	北海道大学	4	17,200	5
3	国	京都大学	12	37,800	8	3	国	琉球大学	3	6,200	2
4	国	北海道大学	8	25,000	2	3	公	大阪府立大学	3	5,400	3
4	他	理化学研究所	8	15,700	6	5	国	大阪大学	2	15,500	1
6	国	東北大学	7	46,100	7	5	国	京都大学	2	7,000	1
6	国	名古屋大学	7	31,500	3	5	国	信州大学	2	2,500	1
6	私	慶應義塾大学	7	13,000	5	5	国	帯広畜産大学	2	1,500	2
9	国	千葉大学	5	14,300	2						
10	国	東京工業大学	4	7,800	6						
11	公	大阪市立大学	3	21,600	2						
11	私	東京理科大学	3	10,200	2						
11	他	産業技術総合研究所	3	9,200	2						
11	私	関西学院大学	3	4,500	1						
11	他	サントリー生物有機科学研究所	3	3,900	2						
16	国	岡山大学	2	14,600	3						
16	国	岐阜大学	2	9,400	2						
16	公	静岡県立大学	2	8,800	3						
16	国	静岡大学	2	8,700	1						
16	国	九州大学	2	8,000	5						
16	国	徳島大学	2	4,400	3						
16	国	筑波大学	2	3,700	2						
16	国	愛媛大学	2	3,600	0						
16	他	微生物化学研究会	2	3,200	1						
16	国	鹿児島大学	2	3,100	2						
16	国	京都工芸繊維大学	2	2,800	2						
16	私	日本大学	2	2,200	2						
16	国	長崎大学	2	1,900	1						
合計			155	521,000	110	合計			48	195,800	34

表2 - 4 - 4 複合新領域「分科」別採択研究課題数上位30位(2004年度)(4)

金額単位/千円

地域研究					ジェンダー						
順位	種別	機関名	2004年度		2003 件数	順位	種別	機関名	2004年度		2003 件数
			件数	金額					件数	金額	
1	国	京都大学	17	87,200	9	1	国	一橋大学	5	11,100	4
2	国	東京大学	7	46,800	7	2	私	立命館大学	3	3,700	3
2	国	東京外国語大学	7	31,500	5	2	国	東京学芸大学	3	3,600	2
4	国	北海道大学	5	12,500	1	4	国	東京大学	2	14,900	0
4	国	東北大学	5	8,900	3	4	国	お茶の水女子大学	2	11,600	3
6	他	国立民族学博物館	3	22,300	3	4	私	龍谷大学	2	7,800	0
6	国	一橋大学	3	12,600	2	4	国	千葉大学	2	6,100	2
6	国	神戸大学	3	10,900	2	4	国	名古屋大学	2	5,200	1
6	公	広島市立大学	3	5,900	2	4	国	山形大学	2	3,100	0
6	私	同志社大学	3	4,900	2	4	国	埼玉大学	2	2,300	1
11	国	九州大学	2	12,500	1	4	国	愛媛大学	2	2,100	1
11	私	早稲田大学	2	8,600	1	4	私	名古屋経済大学	2	2,000	2
11	私	立命館大学	2	7,900	1	4	国	静岡大学	2	1,900	2
11	私	上智大学	2	5,300	1	4	国	筑波大学	2	1,800	1
11	私	大東文化大学	2	4,100	0	4	国	神戸大学	2	1,700	2
11	私	九州国際大学	2	2,800	1	4	国	岡山大学	2	1,600	1
11	私	慶應義塾大学	2	2,600	1	4	私	早稲田大学	2	1,500	1
11	国	広島大学	2	2,400	1	4	国	新潟大学	2	1,400	3
11	国	千葉大学	2	2,300	2	4	私	明治学院大学	2	1,300	2
11	私	東洋大学	2	2,100	0	4	国	大阪大学	2	1,100	1
11	国	大阪大学	2	1,700	3	4	私	城西国際大学	2	500	1
合計			111	395,800	70	合計			93	147,500	93

採択研究課題数

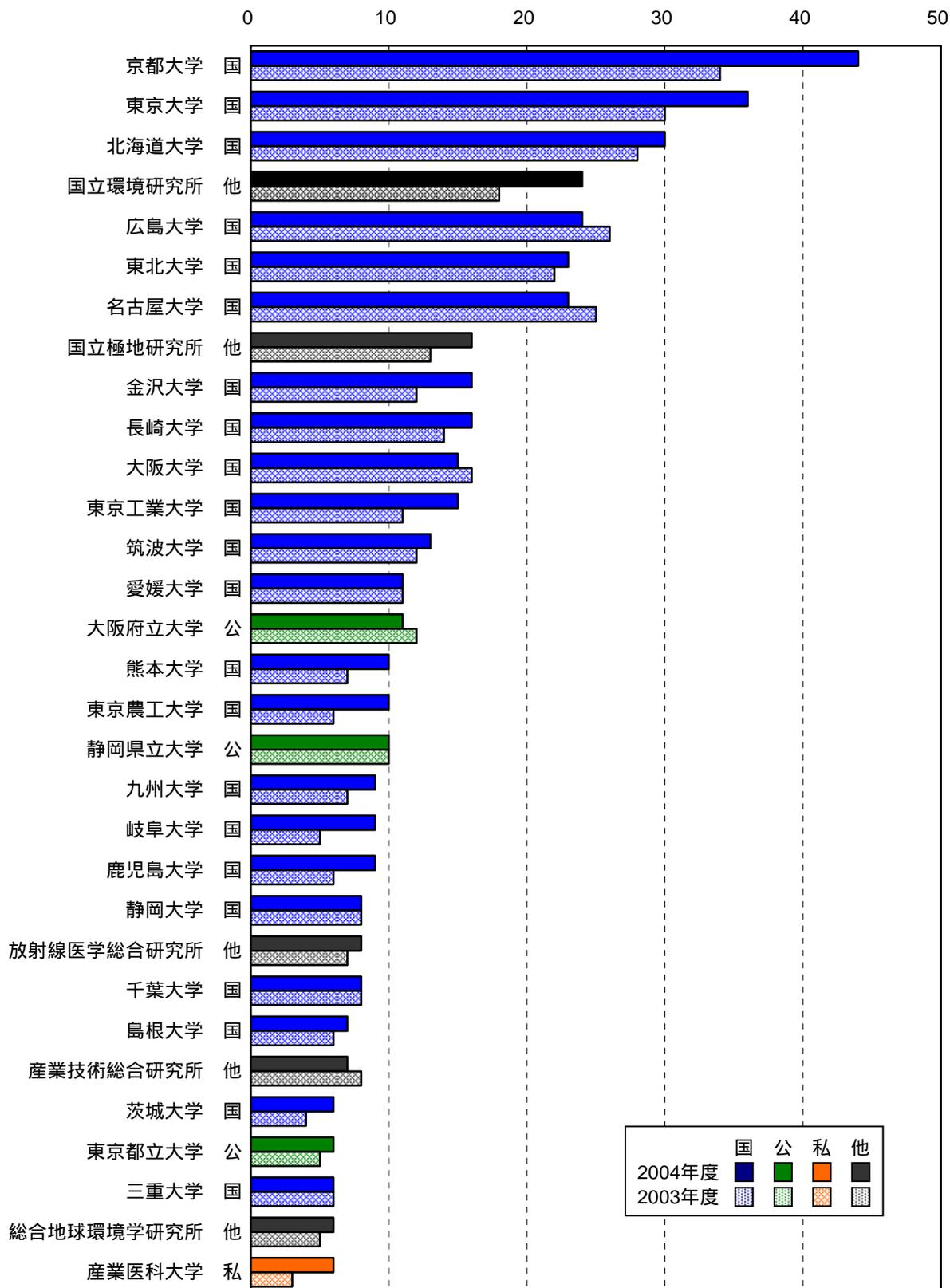


図2 - 7 - 1 環境学 採択研究課題数上位30位(2004年度)

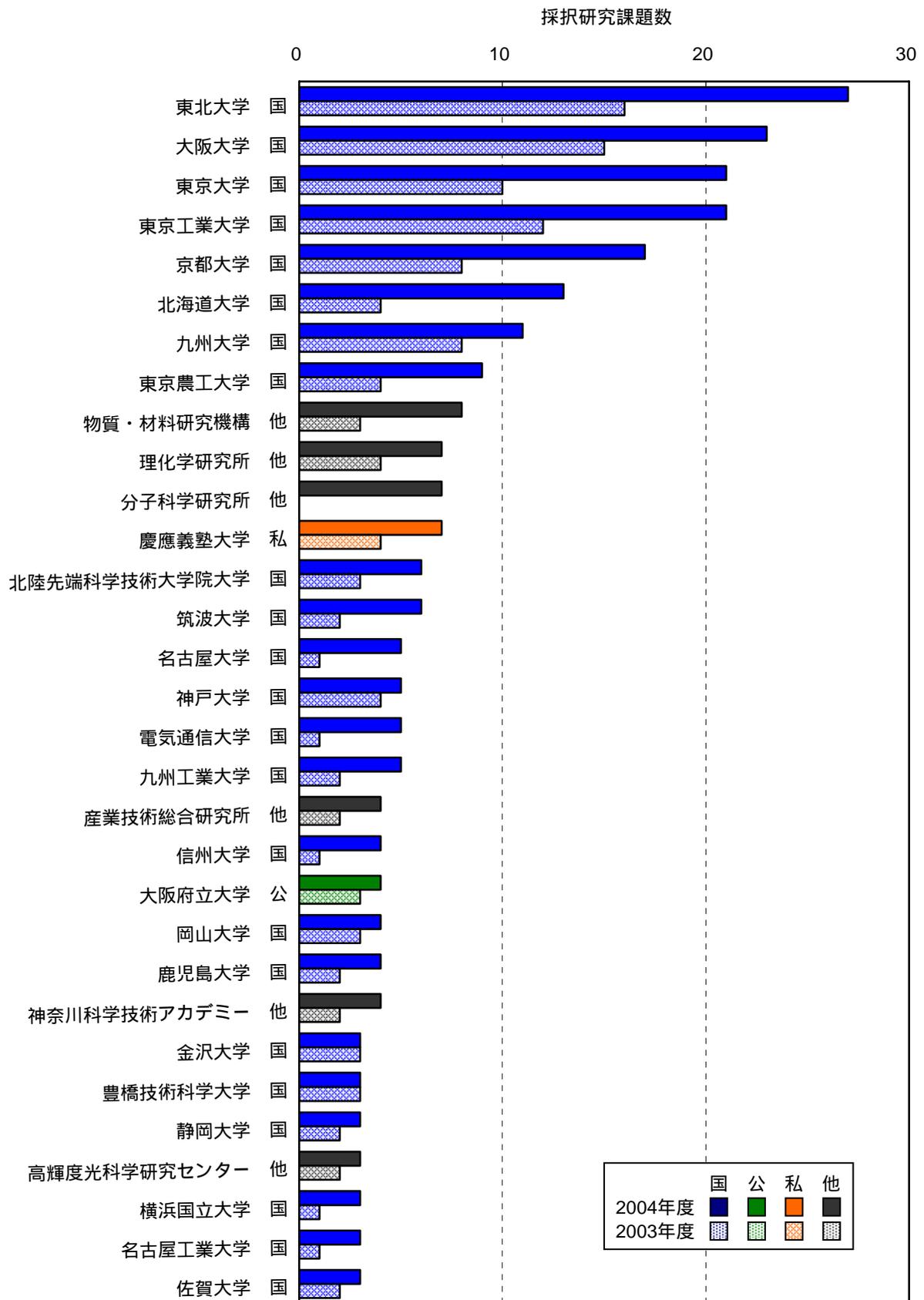


図2 - 7 - 2 ナノ・マイクロ科学 採択研究課題数上位30位(2004年度)

採択研究課題数

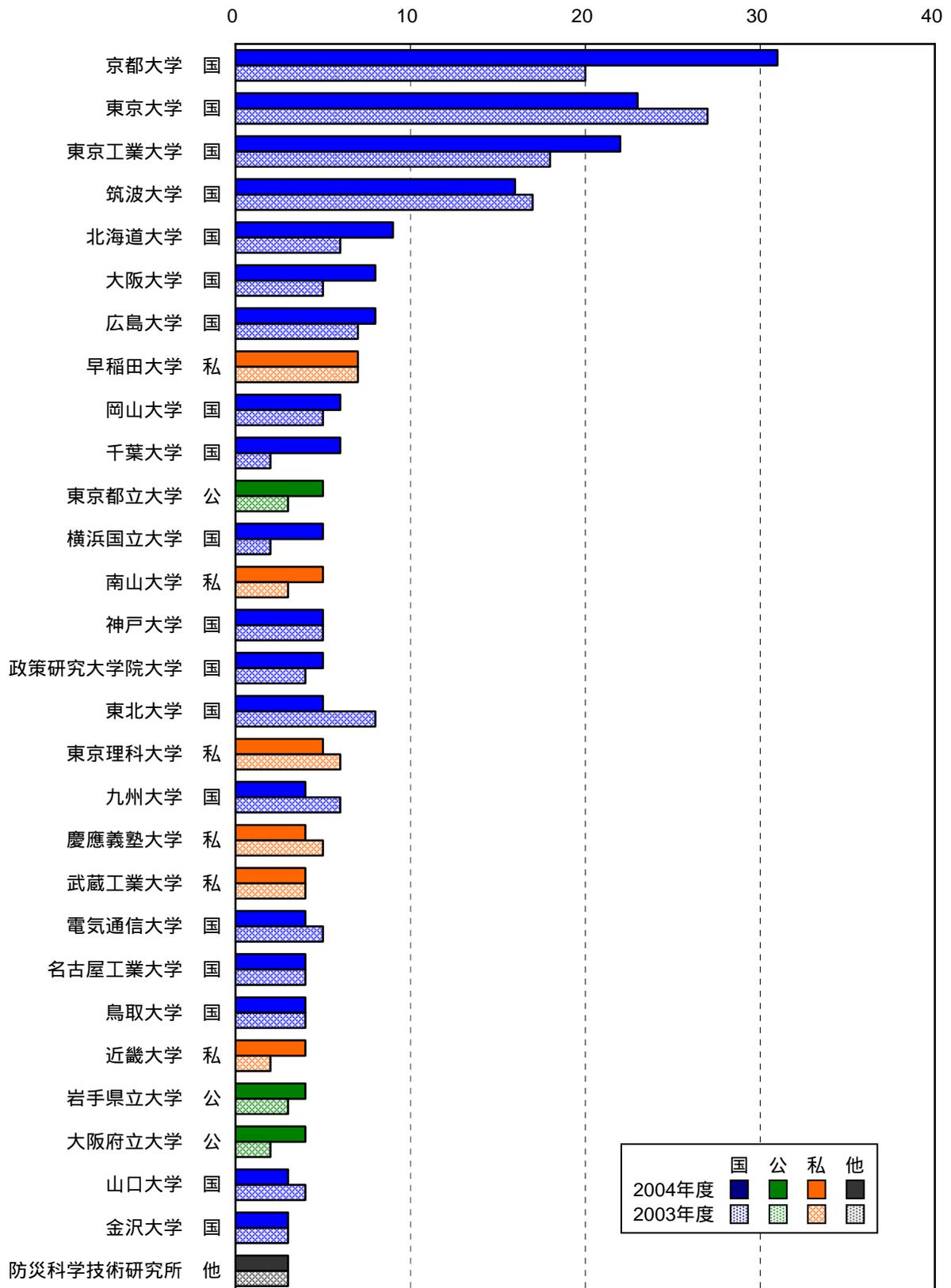


図 2 - 7 - 3 社会・安全システム科学 採択研究課題数上位 30 位 (2004 度)

．大型研究費編

1．概要

本章では、「細目表」の改訂に本質的な影響を受けない大型研究費（特別推進研究、特定領域研究、特別研究促進費、学術創成研究費）について、解析を行う。I 章でも述べたように、このような調査研究には連続性が必要であることを考慮し、大型研究費についても、2003 年度について行った調査研究と同じスタンスに立ってデータの整理を行う。本章で取り扱う大型研究費は大別すると、大型プロジェクト研究、および、一件当あたりの研究費の配分金額が大きな重点的研究がある。

大型プロジェクト研究は、現在、特定領域研究のみとなっている。

特定領域研究：

21 世紀の我が国の学術研究分野の水準向上・強化につながる研究領域、地球規模での取り組みが必要な研究領域、社会的要請の特に強い研究領域を特定し機動的かつ効果的に研究の推進を図るもの。期間：3～6 年。単年度あたりの配分額の目安：1 領域 2 千万円～6 億円程度。

本研究種目は、重点領域研究という名称の研究種目を 1998 年度に研究種目の名称が変更されている。

一方、個人研究を基本とする配分金額の大きな重点的研究として、次の 3 研究種目がある。

特別推進研究：

国際的に高い評価を得ている研究であって、格段に優れた研究成果をもたらす可能性のある研究。期間：3～5 年。申請総額：5 億円程度を目安（制限は設けない）。

本研究種目には、2001 年度まで新規研究課題が採択されていた中核的研究拠点（COE）形成基礎研究費という研究種目の継続研究課題が吸収されている。

学術創成研究費：

科学研究費補助金等による研究のうち優れた内容をもつ研究分野に着目し、当該分野の研究を推進する上で特に重要な研究課題を選定し、創造性豊かな学術研究の一層の推進を図るもの。期間：5 年。推薦制。

創成的基礎研究費という研究種目が、2001 年度から学術創成研究費へと改称されている。

特別研究促進費：

緊急かつ重要な研究課題の研究助成。

本研究種目は 2001 年度から発足している。

2004 年度の科学研究費補助金全体に対する、個別課題研究費（基盤研究、萌芽研究、若手研究）と大型研究費（特別推進研究、特定領域研究、特別研究促進費、学術創成研究費）、個別課題研究費の一種である特別研究員奨励費やその他の研究種目および審査・評価・分析経費について、項目別の予算額について、表 3 - 1 に示す。そのうち、予算額の割合を、図 3 - 1 の円グラフに示す。

2003 年度に比べて、個別課題研究費が 58.2% から 59.2% に、大型研究費が 35.8% から 34.9% に、研究成果公開促進費も 1.9% から 1.8% に微妙に変化し、特別研究員奨励費は 3.1% のままで変化していない。このように、全体としてはほとんど変化がない。

表3 - 1 科学研究費補助金の項目別予算額

金額単位/百万円

研究種目		2003年度	2004年度
1 科学研究費	(1) 特別推進研究	12,980	13,400
	(2) 特定領域研究	40,291	40,291
	(3) 基盤研究(S)	7,880	9,310
	(4) 基盤研究(A)	20,640	20,640
	(5) 基盤研究(B)	34,110	34,110
	(6) 基盤研究(C)	19,870	19,870
	(7) 萌芽研究	4,600	5,250
	(8) 若手研究(A)	4,030	5,440
	(9) 若手研究(B)	11,410	13,110
	(10) 奨励研究	200	600
	(11) 特別研究促進費	1,150	250
	小計	157,161	162,271
2 研究成果公開促進費	(1) 学術定期刊行物	884	884
	(2) 学術図書	685	685
	(3) データベース	1,416	1,416
	(4) 研究成果公開発表	397	397
	小計	3,382	3,382
3 特定奨励費		770	770
4 特別研究員奨励費		5,490	5,710
5 学術創成研究費		8,780	9,950
6 審査・評価・分析経費		917	917
合計		176,500	183,000

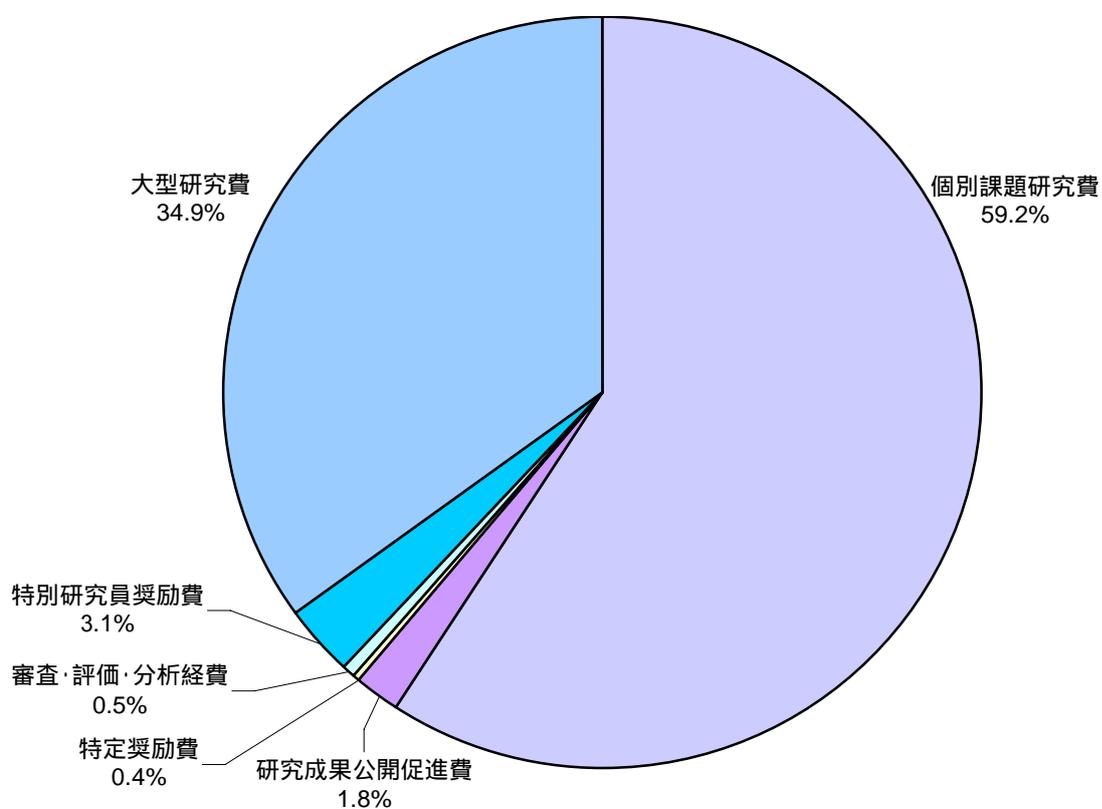


図3 - 1 科学研究費補助金の項目別予算額 (2004年度)

2. 大型研究費の特徴

2004年度の大型研究費の採択研究課題総数、配分額を表3-2に示す。このうち、2004年度の研究種目別の配分額の割合を図3-2の円グラフに示す。特別研究促進費は事実上継続研究課題のみであるため、特定領域研究、特別推進研究、学術創成研究費の3種目に整理されている。

表3-2 大型研究費研究種目別採択研究課題数(2004年度)

金額単位/千円

研究種目	2003年度		2004年度		
	件数	金額	件数	金額	
特定領域研究	3,506	33,203,400	3,537	33,937,900	
特別推進研究	合計	86	9,273,000	80	7,702,500
	旧来からの特別推進研究	62	4,578,000	67	5,147,500
	COE形成基礎研究費からの変更	24	4,695,000	13	2,555,000
学術創成研究費	71	6,078,600	89	6,888,500	
特別研究促進費	14	68,800	11	73,900	

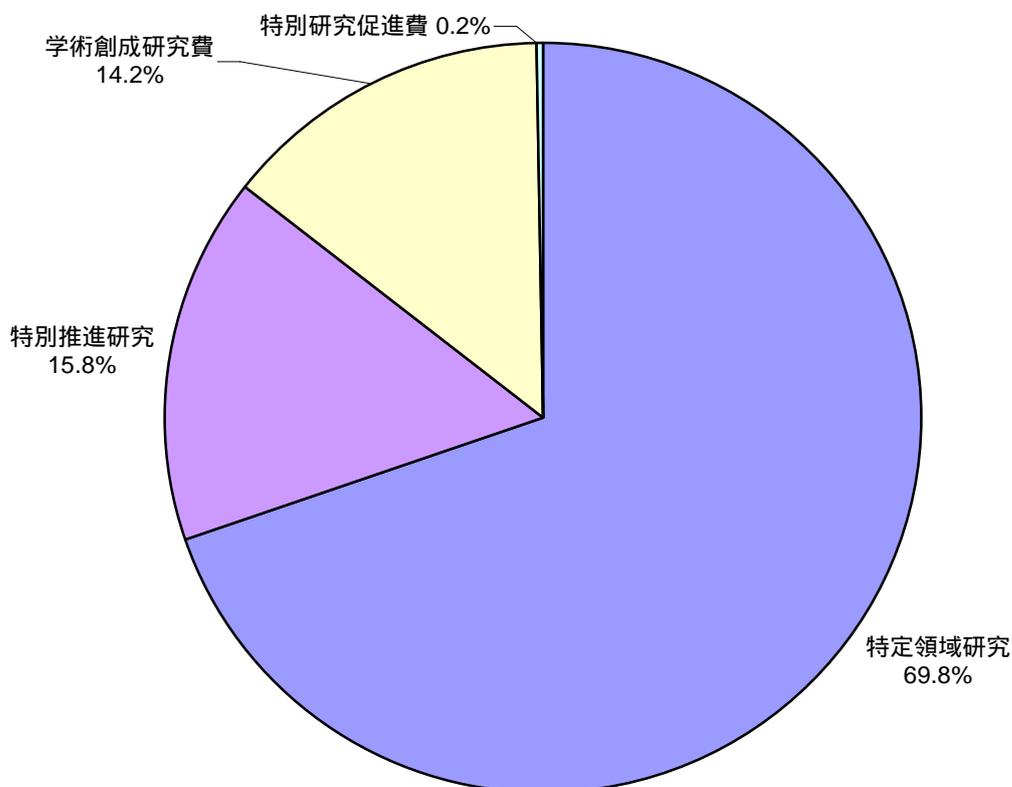


図3-2 大型研究費の研究種目別配分額の割合(2004年度)

大型研究費の配分額の内訳を見ると、特定領域研究が2003年度の68.3%から69.8%に、特別推進研究も19.1%から15.8%に、学術創成研究費が12.5%から14.2%に、特別研究促進費が0.1%から0.2%に変化している。特別推進研究が大きく減少しているが、これはCOE基礎研究費の継続研究課題が終了したことに大きく依存している。それに応ずるように、学術創成研究費が伸びているといえる。

表3-1に示した予算額と表3-2に示した配分額を比べると、金額が大きく異なっていることが目に付く。これは、表3-2の配分額が研究者への直接経費であり、表3-1の予算額が3割の間接経費も含めた額であるためであるので、注意されたい。間接経費を含めても個々の研究種目の配分額は予算額と差があるが、大型研究費の総額についてはほぼ等しくなっている。大型研究費の枠内では、研究状況や申請状況に応じて、柔軟に予算配分しているものと推測される。

以下に、主たる大型研究費の研究種目ごとに、採択研究課題数の機関別の順位を示す。

3 . 研究種目別

3 - 1 特定領域研究

特定領域研究は、過去5年の間に制度が細かく変更されている。1998年度からそれまでの重点領域研究から特定領域研究と種目名称が変更され、研究期間の間に計画研究以外に公募研究を募集する特定領域研究(A)と計画研究のみの特定領域研究(B)とに分離した。さらに、2000年度には、特定の目的に対応するために特定領域研究(C)が創設されている。特定領域研究(C)は、当初ミレニアムプロジェクトとして癌撲滅を目的とした研究を中心に開始されたが、その後、特定領域の中へ取り込まれ、その他の特定領域とは目的が大きく異なった政策的な研究領域といえる。2002年度から特定領域研究(A)、(B)、(C)の区分がなくなり、すべての研究領域が単に特定領域研究と称されるようになった。このような制度変更が数多くなされているが、特定領域研究の新たな領域の発足時期よりも公募研究を募集する公募要領の作成時期が早いために、公募要領のみからは全ての領域を把握することは難しい。

図3-3に、特定領域研究の領域数の年度推移を示す。2002年以降、年々、領域数は減少している。

特定領域研究の各領域は複数の研究課題に分割されており、それらの研究課題ごとに採択が決定される。採択研究課題数を機関別に整理したものの上位50位を表3-3、棒グラフを図3-4にそれぞれ示す。2003年度と比較すると、機関別の採択研究課題数の順位はほとんど変化がない。しかし、東北大学が採択研究課題数を20件、神戸大学が16件増やしているのに対して、名古屋大学が14件、東京工業大学が18件減らしている。

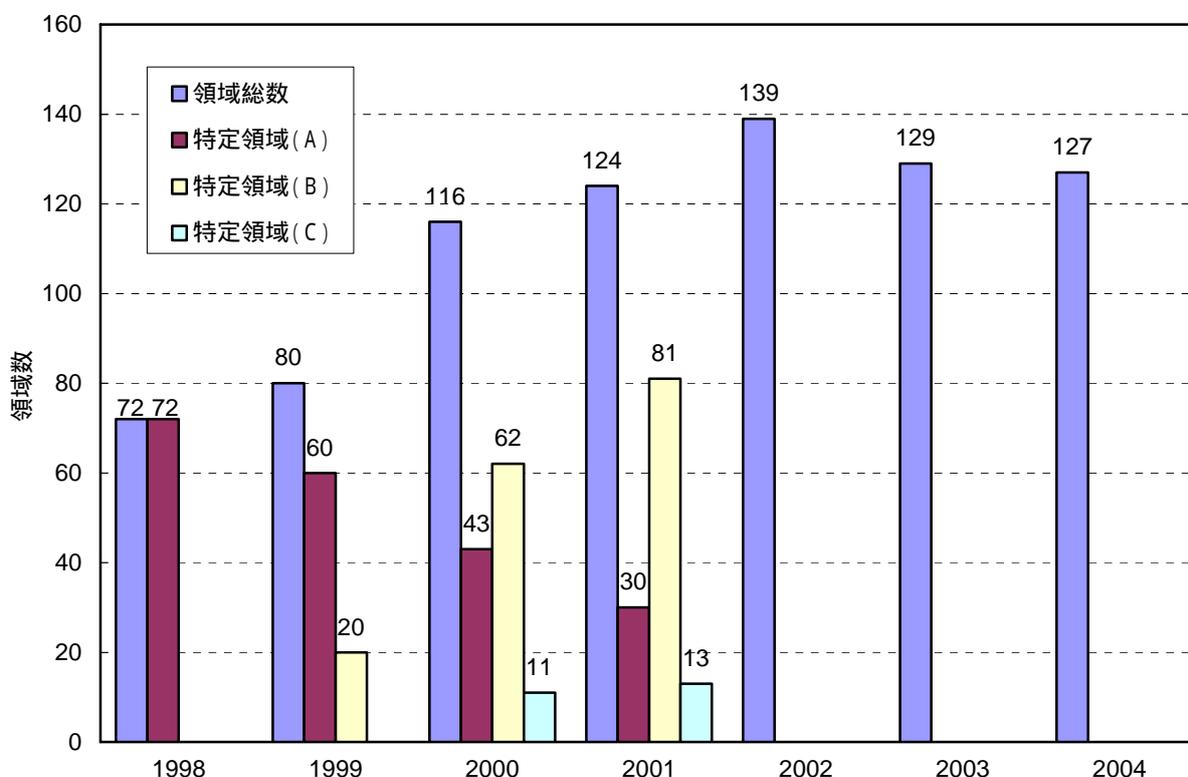


図3-3 特定領域研究の領域数の年度推移

表3 - 3 特定領域研究 採択研究課題数上位50位(2004年度)

金額単位/千円

順位	種別	機関名	2004年度		2003 件数
			件数	金額	
1	国	東京大学	437	7,483,100	438
2	国	京都大学	284	2,673,200	279
3	国	大阪大学	234	2,459,000	238
4	国	東北大学	182	1,515,400	162
5	国	名古屋大学	117	1,349,300	131
6	国	九州大学	114	893,900	119
7	国	北海道大学	92	755,100	97
8	他	理化学研究所	86	754,600	83
9	国	東京工業大学	83	884,200	101
10	国	筑波大学	69	488,600	71
11	国	神戸大学	66	422,800	50
12	国	広島大学	55	370,300	61
13	国	東京医科歯科大学	52	470,800	46
13	私	慶應義塾大学	52	411,900	58
15	国	金沢大学	43	253,100	39
16	国	千葉大学	42	437,900	43
16	国	熊本大学	42	351,500	39
18	国	奈良先端科学技術大学院大学	41	415,300	42
19	他	国立遺伝学研究所	35	1,171,600	33
19	公	大阪市立大学	35	308,000	33
21	国	岡山大学	34	259,200	36
22	公	東京都立大学	30	418,100	28
22	国	群馬大学	30	209,700	34
24	国	長崎大学	27	134,200	26
25	国	徳島大学	26	291,700	25
25	他	東京都医学研究機構	26	131,500	26
27	他	生理学研究所	25	149,200	0
28	他	基礎生物学研究所	23	341,600	0
28	国	新潟大学	23	93,300	18
30	公	横浜市立大学	22	216,200	21
31	公	大阪府立大学	20	131,100	23
32	他	高エネルギー加速器研究機構	18	221,000	22
32	他	国立がんセンター	18	163,700	20
32	国	愛媛大学	18	153,200	15
32	私	東京理科大学	18	103,900	17
36	公	名古屋市立大学	17	124,000	14
36	国	岐阜大学	17	102,500	15
38	私	順天堂大学	16	141,700	12
38	国	横浜国立大学	16	109,100	19
38	他	産業技術総合研究所	16	101,100	8
41	他	愛知県がんセンター	15	225,800	13
41	公	札幌医科大学	15	144,200	16
41	他	国立感染症研究所	15	110,000	12
41	国	富山医科薬科大学	15	96,900	9
41	国	静岡大学	15	66,700	19
41	国	九州工業大学	15	65,600	10
47	他	分子科学研究所	14	86,000	0
47	国	山口大学	14	77,000	19
47	私	早稲田大学	14	63,200	23
50	国	三重大学	13	93,600	19
50	国	信州大学	13	74,500	15
50	他	国立情報学研究所	13	74,200	10
50	国	山形大学	13	48,200	13
		合計	3,537	33,937,900	3,506

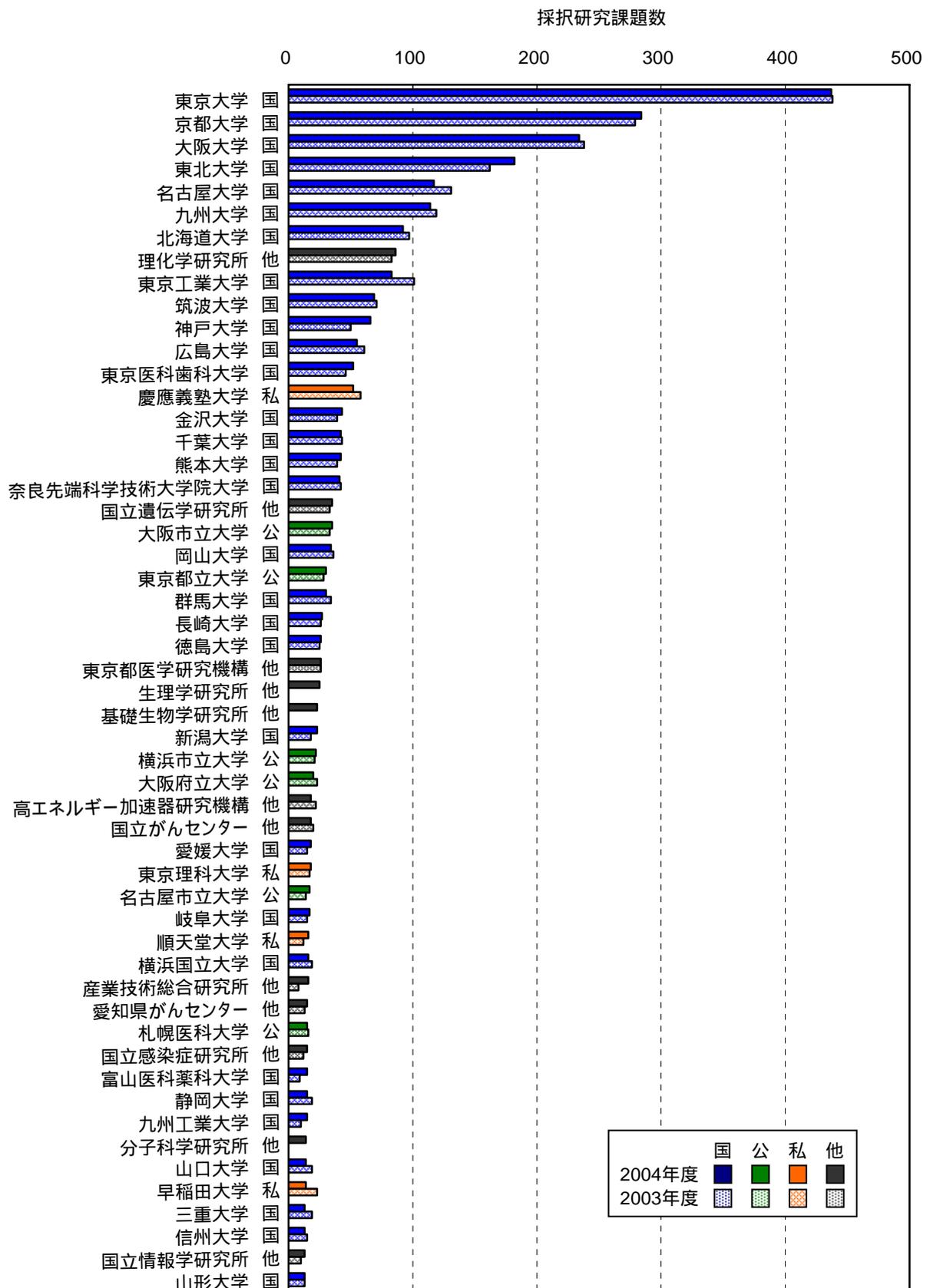


図3 - 4 特定領域研究 採択研究課題数上位50位(2004年度)

3 - 2 特別推進研究

特別推進研究の採択研究課題数を機関別に整理したものを表3 - 4に示す。このうち13件はCOE形成基礎研究費の継続分である。2003年度と比較して大きな順位の変動はないが、1位の東京大学、2位の京都大学が採択研究課題数を減らしている。その一方で、自然科学研究機構、生理学研究所、基礎生物学研究所などの研究機関から申請が採択されている。特別推進研究を受ける研究機関の幅が広がっているといえる。

表3 - 4 特別推進研究 採択研究課題数(2004年度)

金額単位/千円

順位	種別	機関名	2004年度		2003 件数
			件数	金額	
1	国	東京大学	19	1,675,900	23
2	国	京都大学	8	1,256,200	11
3	国	東北大学	7	810,800	6
4	国	名古屋大学	6	473,100	5
5	国	九州大学	4	334,300	3
6	国	大阪大学	3	497,600	5
6	他	自然科学研究機構	3	216,600	0
6	他	理化学研究所	3	197,000	3
9	私	早稲田大学	2	192,000	2
9	他	高エネルギー加速器研究機構	2	136,600	1
11	他	宇宙航空研究開発機構	1	189,000	1
11	他	国立天文台	1	159,000	2
11	国	北海道大学	1	138,300	0
11	国	政策研究大学院大学	1	120,000	1
11	他	生理学研究所	1	113,700	0
11	国	神戸大学	1	106,000	0
11	国	東京外国語大学	1	100,000	1
11	国	豊橋技術科学大学	1	99,000	0
11	他	日本原子力研究所	1	95,000	1
11	他	東京都医学研究機構	1	86,000	1
11	他	基礎生物学研究所	1	82,000	0
11	国	広島大学	1	80,000	1
11	私	慶應義塾大学	1	70,400	1
11	国	東京農工大学	1	69,000	1
11	私	東京理科大学	1	69,000	0
11	他	分子科学研究所	1	63,000	0
11	国	九州工業大学	1	59,000	1
11	私	京都薬科大学	1	55,900	0
11	私	明治学院大学	1	55,000	1
11	他	大阪バイオサイエンス研究所	1	39,100	1
11	国	東京工業大学	1	30,000	0
11	国	筑波大学	1	22,000	0
11	国	三重大学	1	12,000	1
合計			80	7,702,500	86

3 - 3 学術創成研究費

学術創成研究費の採択研究課題数を機関別に整理したものを表3 - 5に示す。2003年度と比較すると、特別推進研究とほぼ同じ変化が見てとれる。すなわち、大きな順位の変動はないが、1位の東京大学、2位の京都大学が採択研究課題数を減らし、その一方で、理化学研究所、国立歴史民俗博物館、宇宙航空研究開発機構などの研究機関が新たに採択されている。学術創成研究費を受ける研究機関の幅が広がっているといえる。

表3 - 5 学術創成研究費 採択研究課題数(2004年度)

金額単位/千円

順位	種別	機関名	2004年度		2003 件数
			件数	金額	
1	国	東京大学	20	1,459,200	18
2	国	京都大学	11	846,300	7
3	国	名古屋大学	9	823,600	5
4	国	大阪大学	8	638,300	5
5	国	東京工業大学	6	432,700	5
6	国	東北大学	5	332,900	3
7	国	北海道大学	4	325,100	4
8	他	高エネルギー加速器研究機構	3	247,200	2
8	私	慶應義塾大学	3	217,600	3
10	他	岡崎国立共同研究機構	2	220,000	3
10	国	奈良先端科学技術大学院大学	2	147,500	2
10	国	九州大学	2	144,300	2
13	国	岐阜大学	1	180,000	1
13	他	理化学研究所	1	94,800	0
13	他	国立歴史民俗博物館	1	87,400	0
13	国	秋田大学	1	80,400	1
13	国	愛媛大学	1	74,900	1
13	私	大阪電気通信大学	1	73,000	1
13	公	大阪市立大学	1	65,300	1
13	公	横浜市立大学	1	61,600	1
13	国	群馬大学	1	61,000	1
13	公	東京都立大学	1	60,300	1
13	国	新潟大学	1	60,000	1
13	国	筑波大学	1	56,600	1
13	他	国立遺伝学研究所	1	51,300	1
13	他	宇宙航空研究開発機構	1	47,200	0
合計			89	6,888,500	71

末尾になったが、この一連の科学研究費補助金採択研究課題数による大学の研究活性度の調査研究にあたって、データの整理、編集、図表の作成をお願いした東京大学生産技術研究所の斉藤加余子氏に感謝の意を表す。